

明治三十八年十二月 省令 大藏省第五十六號

五六九

縣石川		縣長野				縣三重				縣岐阜				
飛騨郡	石川郡	下伊那郡				度會郡				可兒郡				
別宮村	吉野谷村	河野村	鶴來町	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	岩内村	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
十五町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	十六町歩以内	
府大阪													縣富山	
南河内郡													新川郡	
大畠村													大畠村	
同													同	
四町歩以内													四町歩以内	
府京都													縣奈良	
上野市													上野市	
同													同	
二十町歩以内													二十町歩以内	

縣静岡											
濱名郡				小笠原郡				濱名郡			
川方天飯天清和中市有中小笠原平美龍中				佐千三土笠大新油				三上近今田向大濱岩池富			
同				同				同			
三十五町歩以内				三十六町歩以内				三十七町歩以内			
縣愛知											
碧海郡				知多郡				西加茂郡			
大池小志二大印新八				鳴響野千植諸湖島香村				湯長高嶺白上岩藤			
同				同				同			
三十九町歩以内				四十町歩以内				四十一町歩以内			
縣東											
碧海郡				知多郡				西加茂郡			
三上小達小半知				太極名大荒北宮長共森吉大				橋筋山岡川牧野五津山樂二草村			
同				同				同			
四十四町歩以内				四十五町歩以内				四十六町歩以内			

明治三十八年十二月 省令 大藏省第五十六號

五六八

明治三十八年十二月 省令 大藏省第五十六號

納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田		納草葉油 所收煙田	
縣香川	縣高知	縣德島	縣香川	縣高知	縣德島	縣香川	縣高知	縣德島	縣香川	縣高知	縣德島	縣香川	縣高知	縣德島	縣香川
香川郡 安原村	仲多度郡 七個村	綾波郡 粉所村	高知郡 東豐村	名西郡 下分村	麻植郡 水屋平村	美馬郡 一口半山	美馬郡 真光村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村	美馬郡 半田村
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五十七町步以内	九町步以内	五町步以内	三町步以内	五町步以内	十三町步以内	三十八町步以内	百一十町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内	四十七町步以内

五七二

縣長崎	縣大分	縣佐賀	縣大分	縣佐賀	縣大分	縣佐賀	縣大分	縣佐賀
北松浦郡 星鹿村	南高松郡 小南村	北松浦郡 星鹿村	大野郡 新三浦村	北松浦郡 星鹿村	大野郡 新三浦村	北松浦郡 星鹿村	大野郡 新三浦村	北松浦郡 星鹿村
同	同	同	同	同	同	同	同	同
十三町步以内	四十八町步以内	十三町步以内	三十二町步以内	十三町步以内	三十二町步以内	十三町步以内	三十二町步以内	十三町步以内

○大藏省令第五十七號
 明治三十四年大藏省令第二十五號中門司大里ノ次ニ左ノ通追加ス
 明治三十八年十二月二十八日
 大里下關間 企救郡柳ヶ浦村大里ヨリ下關港ニ至ル直航水路
 大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省令第十八號
 明治三十七年陸軍省令第二十七號營內居住下士以下歸郷用被服貸與及返納手續中左ノ通改正ス
 明治三十八年十二月二日
 陸軍大臣寺內正毅

明治三十八年十二月 省令 大藏省第五十七號 陸軍省第十八號

五七三

第三條中「五日」ヲ「一箇月」ニ改ム
第五條中「區分シ」ノ下ニ「之ヲ取繼メ」ヲ加ヘ「速ニ當該部隊ニ送付スヘシ」ヲ受領後一箇月以内ニ當該部隊ニ發送スヘシ」ニ改ム

〔參照〕

陸軍省令第二十七號營内居住下士以下階級用被服貸與及返納手續(明治三十七年十月十二日)抄錄

第三條 被服ノ貸與ヲ受ケタル者ハ 歸郷後五日以内ニ該被服ニ返納部隊名及自己ノ氏名ヲ記シタル標記ヲ附シ貸與證及領收證ト共ニ市町村長ニ差出スヘシ

第五條 市町村長ハ受領シタル被服ヲ各部隊ニ區分シ貸與證ヲ添ヘ適當ノ方法ヲ以テ速ニ當該部隊ニ送付スヘシ但シ其ノ運賃ハ當該部隊ニ請求スルモノトス

○陸軍省令第十九號

明治三十七年一月 陸軍省令第一號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年十二月二十日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治三十七年一月 陸軍省令第一號ハ新開條例ニ依リ軍隊ノ進退其他軍權軍略ニ關スル事項記載禁止ノ件ナリ

○海軍省令第九號

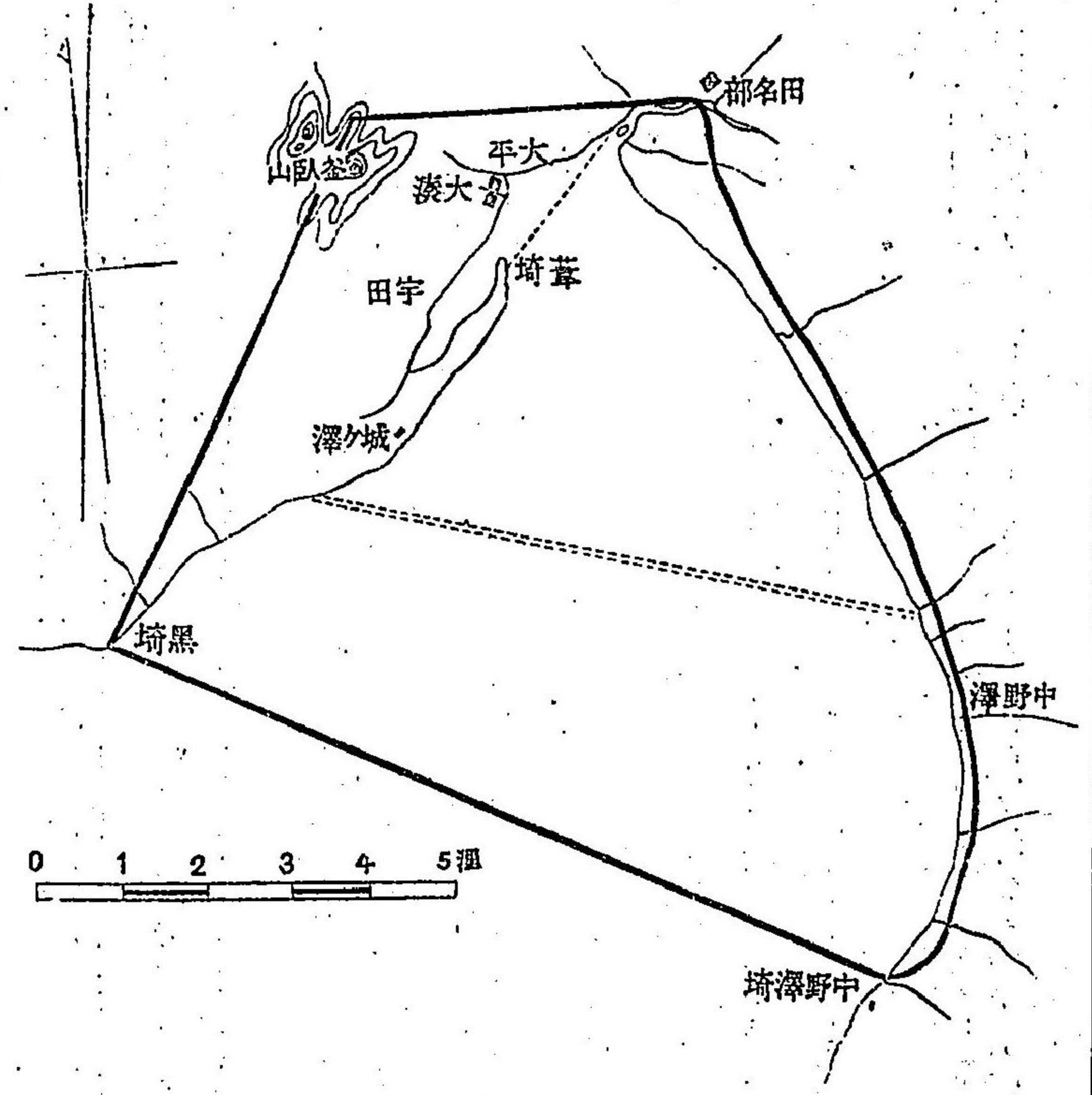
軍港要港規則中左ノ通改ム

明治三十八年十二月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十六條第二十七條 削除
別圖中ニ左ノ如ク大湊要港境域圖ヲ追加ス

大湊要港境域圖



〔參照〕

海軍省令第七號軍港要港規則(明治三十三年四月三十日)抄録

第二十六條 舞鶴鎮守府附屬ニ至ルマテ本則中鎮守府司令長官ノ職務ハ臨時海軍建築部長港務部長ノ職務ハ臨時海軍建築

部支部長之ヲ行フ

臨時海軍建築部長ハ本則ニ關シ其ノ職務ノ一部ヲ臨時海軍建築部支部長ニ委任シテ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 舞鶴鎮守府附屬ニ至ルマテ本則ニ關スル事務ハ總テ臨時海軍建築部支部ニ於テ取扱フ

○海軍省令第十號

明治三十二年海軍省令第十九號海軍召集諸費支出規程中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中第一項ヲ左ノ通改ム

充員召集ニ要スル諸費ハ臨時費ニ屬シ演習召集ニ要スル諸費及簡閱點呼ニ要スル旅費ハ經常費ニ屬ス

第五條 削除

第六條中郡長ヲ郡市長ニ改メ及稅務署長召集諸費ノ支出ヲ掌ル稅務署長ヲ云フ以下同シ稅務署及但書ヲ削ル

第七條中憲兵分隊本部憲兵分隊支部憲兵屯所憲兵屯所ヲ憲兵分隊、憲兵分遣所ニ改ム

第十條中「經理局第一課長」ヲ「經理局長」ニ「鎮守府經理部長」ヲ「其ノ所在地ノ海軍經理部長」ニ改ム

第十一條 召集諸費ノ出納官吏現金ノ前渡ヲ受クル官吏ヲ云フ以下同シハ海軍省經理局局長、郡市長及道廳、府縣廳警

視廳憲兵隊東京府ニ在テハ憲兵司令部トス以下同シノ主任官吏トス

前項ノ外必要ト認ムルトキハ郡書記北海道ニ在テハ支廳長、島嶼ニ在テハ島縣書記、市町村其ノ他

ノ官吏公吏ニ分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該所屬長官、市長

之ヲ命免スヘシ

第十二條中稅務管理局長ヲ市長ニ改ム

第十三條 出納官吏ハ左ノ區分ニ從ヒ召集諸費ノ支出ヲ擔任スヘシ

一 海軍省經理局局長

准士官以上ノ召集旅費

二 郡市長

下士卒ノ召集旅費、第六條ノ旅費、郵便電信料及使丁賃

第十四條中海兵團長ヲ「兵事官」ニ改ム

第七條ノ旅費、郵便電信料及使丁賃

第十六條 削除

第十七條中前條ノ豫算ヲ「仕拂豫算」ニ改ム

第二十一條中當該所屬長官ノ下ニ、市長ヲ加フ

第二十三條中「鎮守府經理部」ヲ「海軍經理部」ニ「鎮守府經理部長」ヲ「海軍經理部長」ニ改ム

第二十六條 此ノ規程中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若ハ之ニ準スヘキ者及市制町村制ヲ施行セザ

ル地方ノ區ニ在テハ區長又東京市、京都市、大阪市ニ在テハ第十一條ノ分任出納官吏ノ命免及第

十二條、第二十一條ノ場合ヲ除クノ外區長之ヲ行フ

第一樣式中何府縣何郡役所ヲ「何廳若ハ何々」ニ改メ備考「四」ヲ削ル

第二樣式 削除

第三樣式中何府縣廳ヲ「何廳若ハ何々」ニ備考中「官署」ヲ「廳」ニ改ム

第四樣式備考中「稅務署」ヲ削ル

第六樣式中何府縣何郡役所ヲ「何廳若ハ何々」ト改ム

○司法省令第三十二號

整理地登記取扱手續中左ノ追加
第六條ノ二 整理地登記規則第三條及第十七條ニ依リ提出シタル農商務大臣ノ認可證ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ整理委員ハ其原本ト共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ提出スヘシ

登記官吏カ認可證ノ原本ヲ還付スルトキハ其謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ
明治三十八年十二月十一日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十三號

岡山地方裁判所管内勝山區裁判所落合出張所管轄美作國真庭郡川東村大字西原、下見田原、赤野、法界寺ニ屬スル商業登記ノ事務ハ同區裁判所久世出張所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十二月二十三日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十四號

佐賀地方裁判所管内武雄區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ
本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十二月二十八日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十五號

佐賀地方裁判所管内伊萬里區裁判所ノ管轄ニ屬スル刑事ノ事務ニシテ裁判所構成法第十六條ノ一第二及第三ノ事項ニ關スルモノハ同法第十六條ノ二ニ依リ武雄區裁判所ヲシテ之ヲ取扱フ
明治三十八年十二月二十八日
司法大臣波多野敬直

本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月二十八日

司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十六號

福岡地方裁判所管内飯塚區裁判所ニ於テ其管轄ニ屬スル刑事事務ノ全部ヲ取扱フ
本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十二月二十八日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十七號

横濱地方裁判所管内横濱區裁判所管轄武藏國横濱市林町ノ同區裁判所神奈川出張所ノ管轄ニ屬セシメ明治三十六年司法省令第十號登記管轄區域表中同出張所管轄欄内大野町ノ次ニ林町ヲ加フ
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十二月二十八日
司法大臣波多野敬直

○司法省令第三十八號

横濱地方裁判所管内横濱區裁判所神奈川出張所管轄武藏國横濱市林町ニ屬スル商業登記ノ事務ハ横濱區裁判所ニ於テ之ヲ取扱フ
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十八年十二月二十八日
司法大臣波多野敬直

○農商務省令第二十七號

明治三十三年六月農商務省令第十二號北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ニ

關スル件中左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第一條及第二條中三分ノ二トアルヲ二分ノ一ニ改ム

(參照)

農商務省令第十二號(明治三十三年六月九日)

第一條 北海道ニ於テ郡農會ヲ設立スルニハ其區域内ニ於ケル町村總數ノ三分ノ一以上ノ町村ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

第二條 北海道農會ヲ設立スルニハ北海道ニ於ケル郡總數ノ三分ノ一以上ノ郡ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

○農商務省令第二十八號

明治三十六年農商務省令第八號ヲ左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

森林收入未納金ニシテ一時ニ徵收シ難キ場合ニ限リ不動産又ハ左ニ掲クル有價證券ヲ擔保トシテ提供セシメ年賦月賦其ノ他ノ延納ヲ許可スルコトヲ得

國債證券

地方債證券

勸業債券

興業債券

貯蓄債券

農工債券

拓殖債券

株式會社日本銀行株券

株式會社橫濱正金銀行株券

株式會社日本勸業銀行株券

株式會社日本興業銀行株券

株式會社臺灣銀行株券

株式會社北海道拓殖銀行株券

株式會社府縣農工銀行株券

日本鐵道株式會社株券

北海道炭礦鐵道株式會社株券

九州鐵道株式會社株券

山陽鐵道株式會社株券

日本郵船株式會社株券

大阪商船株式會社株券

○農商務省令第二十九號

明治三十七年農商務省令第十一號第五條第一項ヲ左ノ通改正ス

明治三十八年十二月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第五條 擔保トシテ徵收スルコトヲ得ル有價證券ハ左ノ二十種トス

國債證券

地方債證券

勸業債券

興業債券

貯蓄債券

農工債券

拓殖債券

株式會社日本銀行株券

株式會社橫濱正金銀行株券

株式會社日本勸業銀行株券

株式會社日本興業銀行株券

株式會社臺灣銀行株券

株式會社北海道拓殖銀行株券

株式會社府縣農工銀行株券

日本鐵道株式會社株券

北海道炭礦鐵道株式會社株券

九州鐵道株式會社株券

山陽鐵道株式會社株券

日本郵船株式會社株券

大阪商船株式會社株券

(參照)

農商務省令第十一號國有林野及產物賣渡代金延納規則(明治三十七年六月二十三日)抄條第五條 擔保トシテ徵收スルコトヲ得ル有價證券ハ左ノ十種トス

- 國債證券
- 地方債證券
- 勸業債券
- 株式會社日本銀行株券
- 株式會社正金銀行株券
- 株式會社日本興業銀行株券
- 株式會社海運拓殖銀行株券
- 株式會社臺灣銀行株券

○農商務省令第三十二號

國有林野地籍臺帳及圖面謄本抄本下付規程左ノ通相定ム

明治三十八年十二月二十三日

農商務大臣男爵清浦奎吾

國有林野地籍臺帳及圖面謄本抄本下付規程

第一條 國有森林地籍臺帳、國有原野地籍臺帳若ハ其ノ圖面又ハ國有林野實測圖ノ謄本又ハ抄本ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ示シテ大林區署長ニ出願スヘシ

第二條 前條ノ出願ニ付テハ左ニ掲グル手續料ヲ納付スヘシ
一 國有森林地籍臺帳又ハ國有原野地籍臺帳ノ謄本又ハ抄本ハ國有林野一箇所ニ付金十錢
二 國有林野地籍臺帳圖面ノ謄本又ハ抄本ハ一枚ニ付金十錢以上金一圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從ヒ大林區署長ノ定ムル金額

三 國有林野實測圖ノ謄本又ハ抄本ハ一枚ニ付金五十錢以上金一圓以下ニ於テ謄寫ノ難易ニ從ヒ大林區署長ノ定ムル金額

第三條 前條ノ規定ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲ニ其ノ職務ヲ以テ請求スル場合ニハ之ヲ適用セズ

○農商務省令第三十一號
明治三十二年農商務省令第十五號商標法施行細則申左ノ通改正シ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ用セズ

施行ス

明治三十八年十二月二十八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第十五條第一類中「石鹼」ノ二字ヲ削リ第二類中「白粉」ヲ「鉛白」ニ改メ第四類中「炷香」ノ下ニ「白粉」ノ二字ヲ加ヘ第七十二類ノ次ニ左ノ一類ヲ加ヘ第七十三類ヲ第七十四類ニ改ム
第七十三類 石鹼

附則

本令施行前差出シタル出願ニ付テハ舊第十五條ヲ適用ス

○農商務省令第三十二號

明治三十二年農商務省令第二十五號國有林野法施行規則申左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二十八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二條ノ二 內務農商務兩大臣ハ地方長官ヲシテ國有林野法第三條第三項ノ境內編入ヲ爲サレムルコトヲ得

第三條中十五日「前」ヲ「五日」ニ改ム

第五條中又ハ林野整理支局長ノ九字ヲ削ル

第三章緣故者ヲ第二章賣拂ニ改ム

第七條第八號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

九 保安林ニ在リテハ其ノ直接利害關係者

十 耕地整理地區ニ編入セル林野ニ在リテハ參加土地所有者

第七條ノ次ニ左ノ八條ヲ加フ

第七條ノ二 國有林野法第八條ノ規定ニ依リ國有林野ノ賣拂ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ

事由ヲ詳記シ之ニ實測圖及左ノ書面ヲ添附シテ大林區署長ニ差出スヘシ

一 賣拂ノ事由ニ關スル證據書類アルトキハ其ノ書類

二 國有林野法第八條第一號ニ掲グル事由ニ依ル出願ニ在リテハ其ノ賣拂ヲ受クル目的ニ關スル計畫又ハ施業ノ方法書

第七條ノ三 賣拂ノ許可アリタルトキハ買受人ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ契約保證金ヲ

納付シ契約擔任官吏ト共ニ賣買契約書ヲ作り雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置クヘシ但シ賣拂

代金千圓ニ滿タサル場合ハ請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

買受人前項ノ指定期間内ニ契約ヲ締結セサルトキハ大林區署長ハ賣拂ノ許可ヲ取消スコトアル

ヘシ

前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ハ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ但

シ契約保證金アルトキハ政府ノ所得トシ違約金ヲ徵收セス

第七條ノ四 左ノ場合ニ在リテハ契約保證金ヲ徵收セサルコトヲ得

一 府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ賣拂フトキ

二 賣拂代金百圓ニ滿タサルトキ

三 賣拂豫約ニ基キ賣拂フトキ

四 公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フトキ

第七條ノ五 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ニ充當スルコトヲ得

有價證券ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ヲ完納シタルトキ之ヲ還付スヘシ

第七條ノ六 林野ノ引渡ハ代金完納ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

買受人ハ林野引渡前ニ在リテハ大林區署長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ林野及之ニ存在スル產物ニ

關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

買受人林野ノ引渡ヲ受ケタルトキハ領收證ヲ作り之ヲ大林區署長ニ差出スヘシ

第七條ノ七 林野ノ附帶義務ハ買受人之ヲ承繼ス

賣拂物件ノ面積數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ其ノ物件ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ

述フルコトヲ得ス

第七條ノ八 買受人第七條ノ六第二項ノ規定ニ違反シ又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付セザルトキハ

大林區署長ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ニ依リ契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トシ契約保證金ナキトキハ違約金

トシテ賣拂代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徵收スヘシ

賣拂豫約ニ基キ賣拂ノ買受人納付期限内ニ代金ヲ納付セザル場合ニ於テハ違約金トシテ一日ニ

付賣拂代金ノ百分ノ一ニ當ル金額ヲ徵收スルコトヲ得

第七條ノ九 不要存置國有林野ノ賣拂ニ關シ特ニ必要ナル事項及本章ノ規定ニ依リ難キ事項ニ付

テハ別ニ之ヲ定ム

第八條第十二條第十六條乃至第十九條、第二十六條及第二十七條中林野整理支局長ヲ「大林區署

長ニ改ム

第二十五條ヲ削ル

第二十六條中轉賃ノ下ニシ又ハ其ノ權利ヲ讓渡ノ十字ヲ加フ
 第六十二條中差出ノ下ニ又ハ作製ノ四字ヲ加ヘ依リテ之ヲ作り差出人署名捺印スヘシヲ「依ルヘシニ改ム」
 第六十五條中公益事業ノ爲ノ下ニ又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ノ十七字ヲ加フ
 第六十六條 本則ニ依ル出願人又ハ契約當事者ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ
 前項ノ出願人又ハ契約當事者二人以上ナルトキハ總代ヲ選定シ書類ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添附スヘシ
 第一號書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ
 第一號書式ノ二

森林(原野)拂下願

何國何郡(市)何村(町)大字何字何何番森林(原野)蕪帳面積何程(ノ内)
 一 實測面積 何程
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 一 何(木竹ノ種類) 何本
 此數量 何尺ノ(柵)ノ(束)
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 一 何(同上) 何本
 此數量 何尺ノ(柵)ノ(束)
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 總計代金何程
 右ハ左記ノ事由有之候ニ付前記ノ代金ヲ以テ御拂下御許可相成度別紙(實測圖)及何々相添此段相願候也
 (出願ノ事由)

年月日 大林区署長氏名殿
 住所 氏 名 印
 第二號書式中林野整理局何支局長氏名殿ヲ「大林区署長氏名殿ニ改ム」
 第九號書式ノ次ニ左ノ四書式ヲ加フ
 第十號書式

印法 賣買契約書(請書ヲ以テ代用スヘキ場合ハ)
 何國何郡(市)何村(町)大字何字何何番森林(原野)
 蕪帳面積何程(ノ内) 何程
 一 實測面積 何程
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 一 何(木竹ノ種類) 何本
 此數量 何尺ノ(柵)ノ(束)
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 一 何(同上) 何本
 此數量 何尺ノ(柵)ノ(束)
 此代金 何程但シ一町以上ニ付
 總計代金何程
 今般前書ノ通賣買契約締結候ニ付テハ國有林野法施行規則及左記ノ條件ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
 大林区署長(署名捺印スヘシ)
 發渡人 官 氏 名 印
 住所 氏 名 印
 買受人 氏 名 印
 年 月 日

- 一 物件引渡ヲ請求スヘキ官廳名
- 一 物件引渡期限何年何月何日限
- 一 (物件引渡場所)
- 一 物件ハ國有林野法第八條明治三十二年勅令第三百六十三號第 號ニ依リ賣拂ヲ受ケタルモノナリ
- 一 何々(契約ヲ要スル條件ヲ列記スヘシ)

第十一號書式

① 地所貸借契約書(請書ヲ以テ代用スヘキ場合ハ本)

何國何郡(市)何村(町)大字何字何何番森林(原野)

一 實測面積 何程

一 用途 何々

一 期間 自何年何月何日(日)何年何月何日(日)間

一 貸付料金 何程但シ一何年何月何日(日)何年何月何日(日)間

年月日

貸借人 氏 名印

住所

借受人 氏 名印

一 引渡ヲ請求スヘキ官廳名

一 引渡期限何年何月何日限

一 (引渡場所)

一 何々(契約ヲ要スル條件ヲ列記スヘシ)

第十二號書式

① 使用契約書(請書ヲ以テ代用スヘキ場合ハ本)

何國何郡(市)何村(町)大字何字何々番森林(原野)

一 見取面積 何程

一 放牧畜數 (牛) 何頭

一 使用料 一箇年金何程 但一頭ニ付料金何程

一 使用期間 自何年何月何日(日)何年何月何日(日)間

一 今般前書ノ通使用契約締結候ニ付テハ國有林野法施行規則及左記ノ條件ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也

年月日

住所用人 氏 名印

住所

借受人 氏 名印

一 料金ハ納入告知書ニ依リ毎年何月何日限(初年分ハ毎年何月何日限)第二年度以降ハ毎年四月三十日限(何本支)金庫へ納付

一 既納ノ料金ハ使用契約期間中ニ畜數ノ減少ヲ來シ又ハ契約期間内使用セサルモノ之ヲ還付セス

一 放牧區域外へ畜類奔逸ノ恐アル場合ハ御命令次第種ヲ殺置シ其他適宜ノ方法ヲ設クヘシ

一 (官)都合ニヨリ他人ノ放牧ヲ許可スルコトアルモ使用人ハ異議ヲ述ヘサルモノトス)

一 何々(契約ヲ要スル條件ヲ列記スヘシ)

第十三號書式

① 部分林設定契約書(請書ヲ以テ代用スヘキ場合ハ本)

何國何郡(市)何村(町)大字何字何何番森林(原野)

一 實測面積 何程

一 用途 何々

一 期間 自何年何月何日(日)何年何月何日(日)間

一 貸付料金 何程但シ一何年何月何日(日)何年何月何日(日)間

一 植樹期間

一 收益分收ノ割合

一 存続期間

一 伐期

右林野ニ對シ部分林設定許可相成候ニ付テハ國有林野部分林規則及國有林野法施行規則並ニ左記ノ條件ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也

年 月 日

大林区署長(官印) 氏 名印
住所 氏 名印

- 一 造林者ハ造林決定圖及造林設計書ニ依リ造林ヲ行フヘシ若シ之カ變更ヲ要スルトキハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 一 造林者植樹ヲ終リタルトキハ直ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 一 境界標ノ設置ヲ要スルトキハ當該官廳ノ指定期間内ニ其ノ指標ニ從テ建設スヘシ
- 一 國有林野部分林規則第四條ノ行為ヲ爲サントスルトキ及同規則第八條ニ掲ケル產物ヲ採取セントスルトキハ豫メ届出テ當該官廳ヲ指標ヲ請フヘシ
- 一 國有林野部分林規則第七條ニ掲ケル造林者ノ義務ニ關シ當該官廳ノ指標アルトキハ其ノ指標ニ從フヘシ
- 一 (造林者間ノ規約書ニ關シ當該官廳ニ於テ變更ヲ命シタルトキハ直チニ其變更ヲ爲スヘシ)
- 一 部分林ニ關シ當該官廳ニ於テ報告ヲ徵シタルトキハ直チニ之ヲ差出スヘシ
- 一 何レノ契約ヲ要スル條件ヲ列記スヘシ

〔參照〕

農商務省令第二十五號國有林野法施行規則(明治三十二年八月三日)抄錄

第三條 國有林野ノ境界査定ヲ施行セントスルトキハ境界査定官吏ハ期日ヲ定メ少クモ其ノ期日ヨリ十五日前ニ査定ノ日時及場所ヲ鄰接地所有者ニ通告スヘシ但シ鄰接地所有者何時ニテモ立會ヲ爲スヘキコトヲ承諾シタルトキハ此ノ限ニテアラズ

第五條 境界査定ヲ終ハリタルトキハ大林区署長又ハ林野整理支局長ハ直ニ其ノ旨ヲ鄰接地所有者ニ通告シ且所轄小林区署ニ査定圖ノ謄本ヲ送付スヘシ

鄰接地所有者ハ前項ノ謄本ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ付箋ニ其ノ旨ヲ記載シテ雙方契印スヘシ

第二十六條 借受人其ノ林野ヲ轉貸セントスルトキハ願書ヲ作り連署連印シテ之ヲ大林区署長ニ差出スヘシ

第六十二條 本則ノ規定ニ依リ差出スヘキ書類ニシテ書式ノ定アルモノハ其ノ書式ニ依リテ之ヲ作り差出人署名捺印スヘシ

第六十五條 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル場合ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニ關スルトキハ願書ニ其ノ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ

第六十六條 出願人數人アルトキハ總代ヲ選定スヘシ

願書ニハ總代署名捺印シ之ニ委任狀ヲ添附スヘシ

○農商務省令第三十二號

不要存置國有林野賣拂規則左ノ通改正ス

明治三十八年十二月二十八日 農商務大臣男爵清浦奎吾

不要存置國有林野賣拂規則

第一條 不要存置國有林野ヲ賣拂ハムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 地籍及面積
 - 二 願書差出ノ期間及場所
 - 三 產物アルトキハ其ノ種類及數量
 - 四 部分林ナルトキハ其ノ存續期間及分收割合
 - 五 保安林ナルトキハ其ノ種類
 - 六 附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
 - 七 其ノ他必要ト認ムル事項
- 公告ハ官報ニ掲載シ並林野ノ屬スル大小林区署、郡市役所、町村役場ニ掲示スルコトニ依リテ之ヲ爲ス

第一條 國有林野法第八條第一號第三號第四號第六號及第七號ノ場合ニ於テ不要存置國有林野ヲ賣拂ハムトスルトキ又ハ同條第五號ノ場合ニ於テ不要存置國有林野ヲ其ノ接續地ノ所有者ニ賣拂ハムトスルトキハ各當事者ニ前條各號ニ掲ケタル事項ヲ通告シテ公告ニ代フルコトヲ得

第二條 前二條ノ規定ハ賣拂豫約ニ基キ又ハ公用若ハ公益事業ノ爲不要存置國有林野ヲ賣拂ハムトスル場合ニハ之ヲ適用セサルコトヲ得

第三條 第二條ニ依リ通告ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ國有林野法第八條第二號ニ依リ賣拂ノ出願ヲ爲サシムル爲其ノ林野ノ屬スル市町村長ニ通告ヲ爲スコトヲ得

一 願書ノ差出期間内ニ願書ヲ差出ササルトキ

二 賣拂ノ許可ヲ得サルトキ

三 賣拂許可ノ取消ヲ受ケタルトキ

四 賣買契約ノ解除アリタルトキ

第五條 不要存置國有林野ノ賣拂願書ハ別紙書式ニ準シテ之ヲ作ルヘシ

第六條 左ニ掲ケタル者ニハ他ノ出願者ニ先チテ賣拂ヲ爲スコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲出願スル者

二 社寺土地ノ森林ニ在リテハ其ノ社寺

三 國有林野法施行規則第七條ノ緣故アル林野ニ在リテハ其ノ緣故者

四 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ借地人

五 國有林野法施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野ニ在リテハ其ノ事業ヲ成功シタル者

六 市町村ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村公立小學校ノ基本財産ニ充ツル爲ニスルモノハ其ノ林野ノ屬スル市町村村學校組合若ハ其ノ區

七 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ニ在リテハ其ノ接續地ノ所有者

第七條 同一ノ林野ニ對シ二人以上ノ出願者アルトキハ農商務大臣ハ各出願者ニ對スル賣拂ノ順位及區域ヲ定ム

第八條 不要存置國有林野ヲ競争入札ノ方法ニ依リ賣拂ヒタル場合ニ於テハ落札者ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ賣買契約ヲ締結スヘシ

前項賣買契約ニ關シテハ國有林野法施行規則第七條ノ五乃至第七條ノ八ノ規定ヲ適用ス

第九條 本則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式)

不要存置國有林(原野)(部分林)賣拂願

何國何郡(市)何村(町)大字何字何々國有林(原野)(保安林)(何官何民部分林)

一 賣拂(見込)面積 何程 但シ地上產物共(權利共有ト記スルハ分)

此代金何程

右ハ左記ノ事由有之候ニ付前記代金ヲ以テ賣拂許可相成度國有林野法第八條第一號ニ依リ此段相願候也

(出願事由)

年 月 日

住所

氏 名 印

備 考

大林区署長官氏名宛

(一) 願書ニハ賣拂圖ヲ添附ヲ要セス

(二) 賣買契約書ノ前書ハ本書式ノ前書ニ準シ之ヲ作製スヘシ

○農商務省令第三十四號

國有林野產物賣拂規則左ノ通定ス

明治三十八年十二月二十八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

國有林野產物賣拂規則

第一條 國有林野產物ノ賣拂ハ國有林野主產物年期賣拂規則ニ依ルモノヲ除クノ外本則ニ依リ之ヲ行フ

立竹ノ年期賣拂ハ本則ノ規定ニ依リテ之ヲ行フコトヲ得

第二條 競争入札ニ依リ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ國有林野及產物賣拂入札規則ニ依リ其ノ手續ヲ爲スヘシ

競争入札ノ落札人ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ締結スヘシ

第三條 隨意契約ニ依リ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ第一號又ハ第二號書式ニ準シテ願書ヲ作り之ヲ當該官廳ニ差出シ其ノ許可ヲ受クヘシ

明治三十二年農商務省令第三十五號國有林野法施行規則第六十二條乃至第六十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 前條賣拂ノ許可アリタルトキハ買受人ハ當該官廳ノ指定シタル期間内ニ契約ヲ締結スヘシ

買受人前項ノ期間内ニ契約ヲ締結セザルトキハ當該官廳ハ賣拂ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

前項ニ依リ取消ヲ爲シタル場合ニ於テハ違約金トシテ出願代金ノ百分ノ十ニ當ル金額ヲ徵收スヘシ但シ契約保證金アルトキハ政府ノ所得トシ違約金ヲ徵收セズ

第五條 隨意契約ニ依ル賣拂ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該官廳ハ契約保證金ヲ徵收セザルコトヲ得

一 賣拂代金百圓ニ滿タサルトキ

二 年期賣拂ナルトキ

三 公用又ハ公益事業ノ爲賣拂フモノナルトキ

第六條 契約保證金ハ契約締結ノ際之ヲ納付スヘシ

第七條 賣買契約書ハ第三號書式ニ準シテ之ヲ作り契約擔任官吏及買受人ハ署名捺印シテ各一通ヲ領收シ置クヘシ但シ賣拂代金千圓ニ滿タサル場合ニ於テハ第四號書式ニ依ル請書ヲ以テ契約書ニ代用スルコトヲ得

第八條 落札人又ハ買受人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

二人以上共同シテ賣拂ヲ受ケムトスルトキハ代理人ヲ定メ當該官廳ニ届出ツヘシ

第九條 現金ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ之ヲ代金ニ充當スルコトヲ得

立竹及副產物ノ年期賣拂ノ場合ハ最終ノ年度ニ至ルニ非サレハ前項ノ充當ヲ爲スコトヲ得ス

有價證券ヲ以テ納付シタル契約保證金ハ代金ヲ完納シタルトキ之ヲ還付スヘシ

第十條 產物ハ一時賣拂ニ付テハ總代金、年期賣拂ニ付テハ各年度ノ代金ヲ完納シタル後ニ非サレハ其ノ引渡又ハ採取許可ヲ爲サ、ルモノトス

買受人產物ノ引渡又ハ採取許可ヲ受ケタルトキハ第五號若ハ第六號書式ノ領收證又ハ請書ヲ作り當該官廳ニ差出スヘシ

第十一條 產物ノ引渡ハ買受人ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

買受人引渡ニ立會ハサルトキト雖當該官吏其ノ手續ヲ爲シタルトキハ引渡ヲ終了シタルモノト看做ス

第十二條 主産物ノ根株ハ特別ノ契約ニ因ルモノ、外賣拂外トシ數量ノ計算ニ加ヘサルモノトス
第十三條 斫伐若ハ採取ノ箇所、其ノ面積、産物ノ數量若ハ品質ニ錯誤アリ又ハ産物ニ隠レタル瑕疵アルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス但シ瑕疵ニ付テハ特別ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 産物搬出又ハ採取ノ期間ハ引渡又ハ採取許可ノ日ヨリ主産物ニ付テハ二箇年、副産物ニ付テハ一箇年ヲ越ユルコトヲ得ス

買受人前項ノ期間内ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキハ期間ノ延期ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ相當期間ヲ指定シ違約金トシテ左ノ金額ヲ徴收スヘシ

- 一 賣拂代金百圓以上ナルトキハ一日ニ付其ノ千分ノ一
- 二 賣拂代金百圓未満ナルトキハ一日ニ付金拾錢

前項ノ出願搬出又ハ採取期間ノ經過後ニ係ルトキハ其ノ間ノ日數ニ應シ前項ニ定メタル金額ノ二倍ヲ徴收スヘシ

前項ノ規定ハ買受人カ搬出又ハ採取ノ期間經過後三十日以内ニ延期ノ出願ヲ爲ササル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 買受人搬出又ハ採取ヲ終リタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ
第十六條 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ搬出又ハ採取未済ノ物件ヲ抛棄シタルモノト看做ス

- 一 買受人第十四條第四項ニ定メタル期間内ニ延期ノ出願ヲ爲ササルトキ

二 延期間内ニ搬出又ハ採取ヲ終ラサルトキ

第十七條 特定ノ目的ヲ以テ賣拂ヲ受ケタル者ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ目的以外ニ物件ヲ使用若ハ消費シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ス

買受人前項ノ規定ニ違反シタルトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ半額ニ相當スル金額ヲ徴收スヘシ

第十八條 買受人搬出又ハ採取未済ノ物件ヲ讓渡シタルトキハ第七號書式ニ依リ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ第十四條ノ規定ニ依リ違約金トシテ徴收スヘキ金額ハ搬出又ハ採取ヲ終ラサル者ヨリ之ヲ徴收スヘシ但シ讓受人ニ於テ之ヲ納付セサルトキハ當初ノ買受人ヨリ全額ヲ徴收スヘシ

第一項ノ届出ナキトキハ第十四條ノ規定ニ依リ違約金トシテ徴收スヘキ金額ハ當初ノ買受人ヨリ之ヲ徴收スヘシ

第十九條 産物ノ搬出又ハ採取ニ當テリ買受人ニ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ當該官廳ハ其ノ物件ヲ差押ヘ又ハ搬出若ハ採取ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ買受人ハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 買受人ハ産物ノ引渡又ハ採取許可以前ニ在リテハ當該官廳ノ認可ヲ得ルニ非サレハ其ノ産物ニ關シ一切ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 買受人前條ノ規定ニ違反シ又ハ納付期限内ニ代金ヲ納付セサルトキハ當該官廳ハ契約ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ契約保證金及搬出又ハ採取未済ノ物件ハ政府ノ所得トス
契約保證金ナキトキハ違約金トシテ賣拂代金ノ百分ノ十二當ル金額ヲ徴收スヘシ

右ハ何々(賣拂)ニ付明治三十二年勅令第三百六十三號第五號ニ依リ御拂下相成度國有林野部分林規則、國有林野法施行規則及國有林野產物賣拂規則ヲ遵守シ此段相願候也

年 月 日

住所

氏 名

第二號書式 何々林區署長官氏名宛 何々拂下願

- 何國何郡何町大字何字何國有林(原野)(面積何程ノ内)
- (一)時拂下ノ例(一)
- 此代金 何程但シ金何程本區別ニ付
- (一)時拂下ノ例(二)
- 何(同上) 採取箇所ノ面積 何程
- 此代金 何程但シ金何程本區別ニ付
- (本例ハ採取ノ季節アル產物ヲ賣拂フ) (下キニ用井ルモフドメ以下之ニ同シ)
- (年割拂下ノ例)(一)
- 何(同上) 何程但シ金何程本區別ニ付 何箇年度
- 此代金 何程但シ金何程本區別ニ付
- 右一箇年分金何程
- (年割拂下ノ例)(二)
- 何(同上) 採取箇所ノ面積何程 明治何年何月何日ヨリ何箇年度
- 一箇年分代金何程但シ金何程本區別ニ付
- 右年割總代金 何程
- 右ノ云々(以下第一號書式ニ準シ調整スヘシ)

第三號書式甲

賣買契約書

何國何郡何町大字何字何國有林(原野)(面積何程ノ内)(此代金ノ場合ハ物件所在地)

(主產物拂下ノ例)

一何(種類及面積ノ別) 何本

此材積 何尺(棚)

此代金 何程但シ金何程

一何(同上) 何本

此材積 何尺(棚)

此代金 何程但シ同上

合本數 何本

此材積 何尺(棚)

此代金 何程

(競争契約ナルトキハ樹種又ハ材種ノ異ル毎ニ代金ヲ區分セシテ)

(立竹又ハ副產物拂下ノ例)(一)

一何(種類及面積ノ別) 何程(數量)

此代金 何程但シ金何程本區別ニ付

(副產物拂下ノ例)(二)

一何(同上) 採取箇所ノ面積 何程

此代金 何程但シ金何程本區別ニ付

今般前書ノ通賣買契約締結候ニ付テハ國有林野產物賣拂規則及左記ノ條件ヲ承諾シ雙方署名捺印ノ上各一通ヲ領收シ置クモ

ノ也

年 月 日

何々林區署長(契約締結官氏名)

賣渡人 官氏名

住所

買受人 氏名

國有林野及產物賣拂入札規則

- 第一條 競争入札ニ依ル國有林野及產物ノ賣拂ハ法令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本則ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 國有林野賣拂ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
 - 一 地籍面積
 - 二 賣拂番號
 - 三 產物アルトキハ其ノ種類數量又ハ採取面積
 - 四 保安林ナルトキハ其ノ種類
 - 五 部分林ナルトキハ其ノ存續期間分收割合
 - 六 附帶義務アルトキハ其ノ義務ノ要領
 - 七 入札及開札ノ場所並年月日時
 - 八 入札保證金ヲ定ムル率
 - 九 明細書標本契約書案等閱覽ノ場所
 - 十 契約ノ締結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名
- 第三條 產物賣拂ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ
 - 一 產物ノ所在地
 - 二 賣拂番號
 - 三 產物ノ種類數量又ハ採取面積
 - 四 搬出又ハ採取ノ期間

五 前條第七號乃至第十號ニ掲グル事項

- 第四條 郵便ヲ以テ入札ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ公告ニ郵便入札書ヲ送達スヘキ場所並其ノ到達ヲ要スル年月日時ヲ示スヘシ
- 第五條 入札人又ハ落札人ノ代理人ハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ當該官廳ニ差出スヘシ
- 第六條 入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ヲ保證金取扱官吏ニ示シ封緘ノ上之ヲ差出シタル後其ノ入札書ヲ入札函ニ投入スヘシ
- 賣拂番號アルトキハ番號毎ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七條 郵便入札書ハ其ノ封書ヲ二重ト爲シ内封ニハ入札物件ノ賣拂番號アルトキハ其ノ番號ヲ記シ外封ニハ其ノ表面ニ入札書ノ三字ヲ朱記シ書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ差出スヘシ
- 入札人ハ第十四條第一項郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ノ還付若ハ返送ニ必要ナル郵便切手ヲ證書ト同時ニ送付スヘシ
- 郵便入札書ニシテ其ノ封皮ニ依リ入札書ナルコトヲ認メ難キトキハ無効ト爲スコトアルヘシ
- 第八條 入札人入札書ヲ郵便ニ付スルトキハ入札保證金ヲ郵便爲替ニ付シ若ハ金庫ニ寄託シ其ノ爲替證書又ハ金庫ノ保管證書ヲ入札書ノ外封中ニ封入シ入札書ト共ニ之ヲ送付スヘシ
- 入札人入札保證金ヲ金庫ニ寄託セムトスルトキハ第二號書式ニ依リ入札保證金寄託請求書ヲ便宜ノ大林區署又ハ小林區署ニ差出シ寄託通知書ノ交付ヲ受ケ之ニ現金又ハ有價證券ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付シ其ノ保管證書ヲ受ケヘシ
- 第九條 保證金取扱官吏入札保證金ヲ受領シタルトキハ第三號書式ニ依リ預リ證書ヲ交付シ郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ヲ受領シタルトキハ其ノ旨ヲ入札人ニ通知スヘシ

第十條 落札人ハ豫定價格以上ノ最高額入札トス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ無効トス

- 一 賣拂番號、入札金額、氏名若ハ名稱其ノ他緊要ナル文字ノ不明瞭ナルトキ
- 二 捺印ナキトキ
- 三 入札保證金不足ナルトキ
- 四 郵便入札書ニシテ書留郵便又ハ配達證明郵便ヲ以テ差出サザルモノナルトキ
- 五 郵便入札書ニシテ第四條ニ依ル公告ニ示シタル期限又ハ場所ニ到達セザルトキ
- 六 郵便入札書ニシテ郵便爲替證書又ハ金庫保管證書ノ封入ナキトキ

第十二條 落札人定リタルトキハ契約擔任官吏ハ其ノ旨ヲ落札人ニ通知スヘシ

第十三條 保證金取扱官吏ハ左ノ各號ニ依リ入札保證金ヲ入札人ニ還付スヘシ

- 一 入札ヲ取消シタルトキハ入札人全員ノ入札保證金
- 二 入札無効ト爲リタルトキハ其ノ入札人ノ入札保證金
- 三 落札人定リタルトキハ其ノ他ノ入札人ノ入札保證金
- 四 落札人契約ヲ結ヒタルトキハ其ノ入札保證金

第十四條 前條ニ依リ還付スヘキ入札保證金カ郵便爲替證書ナルトキハ保證金取扱官吏ハ書留郵便ヲ以テ直チニ之ヲ入札人ニ還付シ金庫保管證書ナルトキハ保管金寄託ノ取扱ヲ爲シタル大林區署又ハ小林區署ニ返送シ其ノ旨ヲ入札人ニ通知スヘシ但シ第七條第二項ニ依リ郵便切手ノ送付ナキトキハ其ノ送付アル迄保證金ノ證書ヲ還付又ハ返送セズ

入札人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ第九條ノ受領通知書ト共ニ之ヲ前項ノ大林區署又ハ小林區署ニ差出シ保管證書ノ裏書ヲ受クヘシ

第十五條 契約擔任官吏ハ入札人ノ連合、不穩ノ舉動其ノ他ノ事由ニ依リ正當ニ入札ヲ行フコト

能ハスト認ムルトキハ何時ニテモ其ノ入札ヲ取消スコトヲ得

第十六條 本則ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行前明治三十二年農商務省令第二十六號國有林野及產物賣拂規則ニ依リ爲シタル公告ハ本則ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第一號書式

入札書

第何號

一金何程

右代金ヲ以テ買受申度入札保證金相添入札書差出候也

年 月 日

住所(何國何市何町大字何番地)

氏 名

何小林區署(管理廳ノ區別ニ依リ、管該官廳)

官氏名宛(吏ノ官氏名ヲ記載スヘシ)

代送人ノ代送者ナラズトキハ其ノ下ニ同シ

第二號書式

入札保證金寄託請求書

一金何程

但シ第何號入札保證金(入札保證金ハ買拂番號毎ニ區別シ納付ヲ要スルモノナルコト付同時ニ取付)

但シ第何號入札保證金

又ハ

一何有價證券額面

何程但シ第何號入札保證金何程ノ代用

何號

何番

何回券

何枚

何有價證券額面

何程但シ第何號入札保證金何程ノ代用

何號

何番

何回券

何枚

一 第四十八條第一項第二號ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ
 三 一 電線路ノ幅員 以下之ニ依テハ八尺ヲ超過スヘカラス
 四 電柱ハ八十度以下ニ傾斜セシムヘカラス
 一 第四十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第四十八條ノ二 市街地ノ道路ニ於テ其ノ同一側ニ二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スル場合ニハ道路ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ左ノ制限ヲ命スルコトアルヘシ
 一 各電線路ノ幅員ヲ五尺マテニ且各電線路ノ相面スル側ノ幅員ヲ電柱ノ中心ヨリ二尺マテニスルコト
 二 各電線路ノ相面スル方向ニ於ケル電柱ノ傾斜角度ヲ九十度マテニ引直スコト
 本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス
 一 第五十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
 架空電線ト其ノ電線ヲ支持スル以外ノ電柱(支柱、支線ヲ含ム)腕木、竝樹木トノ間隔ハ八寸以上ヲ保持スヘシ
 一 第五十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
 第五十一條ノ二 電柱ハ他ノ同一支持物ニ架渉セル他人所屬架空電線ノ中間ヲ貫通シテ建設スヘカラス
 一 第一百十二條第一號中第二十一條ノ下ニ「第二十二條ノ二」ノ七字ヲ加フ
 ○逓信省令第七十八號
 本年六月逓信省令第四十二號韓國國內電話ニ關スル規程事項中第三號ヲ削除ス。
 明治三十八年十二月八日 逓信大臣大浦兼武

〔參照〕

逓信省令第四十二號(明治三十八年六月十七日)抄録 第三號

電話ニ關スル料金ハ總テ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

○逓信省令第七十九號

韓國內特設電話ニ關シテハ左記事項ヲ除クノ外明治三十八年四月逓信省令第三十四號特設電話規則ヲ準用ス

明治三十八年十二月八日

逓信大臣大浦兼武

一 特設電話規則第十條ニ據リ納ムヘキ料金ハ明治三十八年六月逓信省令第四十二號ニ定ムルトコロニ據ル

○逓信省令第八十號

本年六月逓信省令第四十二號加入登記料及電話使用料ノ部中「仁川」ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十八年十二月十四日

逓信大臣大浦兼武

地名	加入登記料	電話使用料年額
馬山	金 十 圓	金 六十 圓
大邱	金 十 圓	金 六十 圓
鎭南浦	金 十 圓	金 六十 圓
元山	金 十 圓	金 六十 圓

○逓信省令第八十一號

滿洲及樺太ニ於テ陸軍官憲ノ許可ヲ受ケ發行スル定期刊行物ニシテ第三種郵便物ノ認可ヲ受ケム

トスルモノハ明治三十三年九月逓信省令第七十三號第三種郵便物認可規則ヲ準用ス但シ第三種郵便物ニ關スル願書及届書ハ滿洲ニ於テハ關東總督府郵便部ニ樺太ニ在リテハ樺太守備隊郵便部ニ之ヲ差出スヘシ
本令ハ明治三十八年十二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十二月十四日

陸軍大臣寺內正毅
逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第八十二號

明治三十年^{十二}月^{十二}日 逓信省令第三十二號電話料及電話呼出料ノ部中左ノ通改定シ本月二十五日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十三日

逓信大臣大浦兼武

「直方飯塚間」ノ次ニ左ノ通加フ	
宮ノ下箱根間	金二十錢
湯本箱根間	金二十錢
「熱海國府津間」ノ次ニ左ノ通加フ	
小田原箱根間	金二十五錢
國府津箱根間	金二十五錢
熱海箱根間	金二十五錢
檜原箱根間	金二十五錢
「小樽濱益間」ノ次ニ左ノ通加フ	
東 ^ニ 風 ^ニ 律 ^ニ 根 ^ニ 間	金三十錢
	金二十錢

○逓信省令第八十三號

本年^六月逓信省令第四十二號電話料及電話呼出料ノ部中一回ノ電話呼出料「京城電話加入區域内及「仁川電話加入區域内」ノ下ニ各金五錢「京城仁川間」ノ下ニ金十五錢ヲ追加シ來明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

明治三十八年十二月二十五日

逓信大臣大浦兼武

○逓信省令第八十四號

礦業特設電話規則左ノ通之ヲ定ム

明治三十八年十二月二十八日

逓信大臣大浦兼武

礦業特設電話規則

第一條 逓信大臣ハ必要ト認ムル地方ニ於テ礦業者ノ申請ニ依リ同一人若ハ同一組合ノ經營ニ係ル礦業及其ノ直接附帶事業ノ專用ニ供スル爲メ礦業特設電話ヲ施設ス

第二條 礦業特設電話ヲ專用スル礦業者以下單ニ專ハ逓信省ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ電話ニ要スル機械線路其ノ他一切ノ物件ヲ供給シ且其ノ設備及維持ヲ負擔スヘシ

第三條 第一條ノ申請ヲ爲サントスル者ハ逓信大臣ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ

- 一 專用ヲ必要トスル事由及地域礦業及附帶事業ノ種類其ノ經營作業方法等並専用ノ區域ヲ記載シ且該區其ノ他ノ地域ヲ表示セル圖面ヲ添附スヘシ
- 二 電話機設置ノ場所所在道府縣郡市區町及電話機ノ箇數ニ記載スヘシ
- 三 前項ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
 - 一 工事設計書機械ノ種類保安裝置線路ノ種類太サ線路ノ種類及互長同線ノ方式等ヲ記載スヘシ
 - 二 電話線路圖線路及機械設置場所他ノ電信電話線電燈線電力線等ノ位置道府縣郡市區町村等ノ境界線ヲ記載スヘシ

三 電話回線圖 交換機電話機轉換機ノ位置ヲモ記載スヘシ

第四條 左記各號ノ場合ニ於テハ關係ノ書類及圖面(第四號ノ場合ヲ除ク)ヲ具シ逓信大臣ニ申請スヘシ

一 専用ヲ必要トスル事由及地域ヲ變更セムトスルトキ

二 鑛業直接附帶事業用電話機ヲ新設移轉シ又ハ其ノ設置場所ノ名稱性質ヲ變更セムトスルトキ

三 鑛業用電話機ヲ其ノ直接附帶事業用ニ變更セムトスルトキ

四 全部ノ専用ヲ廢止セムトスルトキ

左記各號ノ場合ニ於テハ遲滞ナク關係ノ書類及圖面ヲ具シ逓信大臣ニ届出ツヘシ但シ左記第一號ノ場合ニ於テハ通話ノ開廢年月日場所名及箇數ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

一 電話機ヲ増加シタルトキ

二 電話機設置場所ヲ移轉シ又ハ其ノ名稱性質ヲ變更シタルトキ

三 前項各號ノ場合ヲ除クノ外前條第二項各號ノ事項ヲ變更シタルトキ

第五條 鑛業特設電話ヲ専用スル鑛業及其ノ直接附帶事業ノ全部ヲ繼承シタル者ハ其ノ電話ノ專用ヲ繼承スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者連署ノ上逓信大臣ニ届出ツヘシ

第六條 専用者ハ電話機一箇毎ニ通貨ヲ以テ電話専用料月額金五十錢ヲ所轄一等郵便局ニ納ムヘシ

第七條 電話専用料ハ左ノ各期ノ初月一日ヨリ十日マテニ其ノ期ニ屬スル分ヲ納ムヘシ

第一期 四月ヨリ六月マテ

第二期 七月ヨリ九月マテ

第三期 十月ヨリ十二月マテ

第四期 一月ヨリ三月マテ

電話開通初期ノ電話専用料ハ開通ノ月ヨリ其ノ期ノ末月ニ至ル分ヲ開通ノ日ヨリ十五日以内ニ納ムヘシ月ノ中途ニ於テ電話ヲ開通シタルトキト雖開通ノ月ニ屬スル電話専用料ハ一箇月分トシテ計算ス

一期ノ中途ニ於テ電話機ノ使用ヲ廢止シタルトキト雖其ノ期內ニ屬スル電話専用料ノ全額ヲ徵收ス

電話機ノ使用ヲ廢止セムトスル場合ニ於テ各期ノ末月十五日迄ニ其ノ旨届出ヲ爲ササルトキハ其ノ電話機ニ對シ次期ニ屬スル電話専用料ヲ徵收ス

第八條 専用者ハ鑛業特設電話ヲ専用スル鑛業及其ノ直接附帶事業ノ爲明治三十三年九月逓信省令第四十八號私設電信規則ニ依ル電信電話ヲ私設スルコトヲ得ス

第九條 専用者本規則ニ違背シ又ハ主務官署ノ命令ヲ遵守セサルトキハ電話ノ専用ヲ禁止又ハ停止スルコトアルヘシ

第十條 本規則ニ依ル電話ニ關シテハ明治三十年十二月十二日逓信省令第三十一號電話交換規則第三十八條第四十條第四十一條第四十二條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 逓信大臣ハ必要ト認ムルトキハ鑛業特設電話ノ全部若ハ一部ヲ停止又ハ廢止スルコトアルヘシ

第十二條 専用者會社ナルトキハ其ノ代表者又組合ナルトキハ其ノ總代人ヲ逓信大臣ニ届出ツヘシ

第十三條 本規則ニ依リ提出スル申請書又ハ届書ハ電話施設地ヲ管轄スル一等郵便局ヲ經由スヘシ
第十四條 本規則ハ官廳ノ經營ニ係ル續業ニモ之ヲ準用ス

法令全書

臺灣總督府令

○臺灣總督府令第一號(官報一月二十六日)

印鑑ノ證明ヲ請求セントスル者ハ左ノ様式ニ依リ豫メ之ヲ管轄廳ニ届ケ置クヘシ

印鑑ノ届出ヲ爲ス印形ハ一八一種ニ限ル

本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年一月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

様式 (用紙厚紙)

一 寸	印 鑑 (印)	四 寸
	街庄名番戶 氏 名	

○臺灣總督府令第二號(官報一月二十六日)

明治三十四年五月律令第三號臺灣土地收用規則ヲ明治三十八年一月十九日ヨリ基隆廳石碇堡暖暖街ニ施行ス

明治三十八年一月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第三號(官報二月一日)

明治三十五年十一月府令第八十三號臺灣總督府通信書記補特別任用試験規則中左ノ通改正ス

明治三十八年一月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第三條中「一箇月前ニ府報ヲ以テ之ヲ公示ス」ヲ「二箇月前ニ府報及臺灣ニ於テ發行スル新聞紙一種以上ニ之ヲ公告ス」ニ改ム
第六條中其ノ一ノ下「以上」ヲ削リ土語ノ下ニ「但シ本島人志願者ニ對シテハ之ヲ課セス」ヲ加フ
第十二條 試験ニ關スル必要ナル手續ハ試験委員長之ヲ定ム

〔參照〕

臺灣總督府令第八十三號臺灣總督府通信書記補特別任用試験規則(明治三十五年十二月五日官報)抄録
第三條 試験志願者ハ別記書式ニ依リ願書ニ履歷書ヲ添ヘ試験期日十日前迄ニ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ但シ試験ヲ行フヘキ期日及場所等ハ一箇月前ニ府報ヲ以テ之ヲ公示ス

○臺灣總督府令第四號(官報二月九日)

明治三十七年三月府令第二十四號臺灣公學校規則教授ノ程度及每週教授時數表中手工及商業第六學年ノ各欄ニ同上ヲ加フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年一月二十七日

○臺灣總督府令第五號(官報二月九日)

臺灣總督府國語學校第一附屬學校ノ教則ニ關シテハ臺灣公學校規則ニ準據スヘシ

明治三十一年八月府令第八十四號ハ廢止ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年一月二十七日

〔參照〕

明治三十一年八月三十日 臺灣總督府令第八十四號ハ臺灣總督府國語學校第一附屬學校規程細則ノ件ナリ

○臺灣總督府令第六號 (官報 二月九日)

明治三十一年八月 府令第八十六號 臺灣總督府國語學校第二附屬學校規程第八條中第三章第九條第十條ヲ削ル

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七號 (官報 二月九日)

明治三十七年九月 府令第六十七號中第三附屬ノ下ニ「高等女」ヲ加フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十七年十月三日 臺灣總督府令第六十七號ハ臺灣總督府國語學校第三附屬學校規程ナリ

○臺灣總督府令第八號 (官報 二月二十三日)

明治三十七年二月 府令第十五號中左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

二 見積代價金百圓ヲ超エサル主副産物ヲ賣渡ストキ

〔參照〕

臺灣總督府令第十五號 (明治三十七年二月二十六日官報)抄録

臺灣官有森林原野及産物特別處分令ニ依ル森林原野及産物ノ賣渡シ又ハ賣渡シニ關スル事項ハ左ノ場合ニ限り縣長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

二 見積代價金百圓ヲ超エサル主副産物ニシテ主産物及副産物處分豫定案ニ掲ゲタルモノヲ賣渡ストキ

○臺灣總督府令第九號 (官報 二月二十三日)

印刻營業取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年二月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

印刻營業取締規則

第一條 印章ノ彫刻及製造ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ管轄廳ニ願出テ許可ヲ受ク

一 本籍、住所、氏名及年齢

二 營業所ノ位置

第二條 廢業者ハ休業シ又ハ前條各號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ管轄廳ニ届出ヘシ

營業者死亡シタルトキハ相續人又ハ遺產管理人ヨリ其ノ旨届出ヘシ

第三條 營業者ハ職工ヲ雇入レ若ハ徒弟ヲ置キタルトキハ其ノ年月日、本籍、住所、身分、氏名及年齢

等ヲ記シ五日以内ニ管轄廳ニ届出ヘシ

其ノ届出ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條 營業者ハ管轄廳ノ所定ニ從ヒ印鑑簿ヲ調製シ注文者ノ住所、氏名、所用材料ノ種類並交付

ノ年月日ヲ記入シ其ノ印鑑ヲ取置クヘシ

第五條 前條ノ簿冊ハ管轄廳ノ檢印ヲ受クヘシ若シ毀損、亡失シタルトキハ速ニ管轄廳ニ届出ヘシ

第六條 營業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニハ首長又ハ管理人若ハ本人ノ注文書ヲ求メ之ヲ保

存スヘシ

一 官印其他公署學校病院銀行會社諸團體等ノ印章ノ彫刻若ハ製造
 二 磨滅、缺畫等ニ依リ舊印ノ補修
 第七條 印鑑簿及注文書ハ使用終了ノ日ヨリ十箇年間之ヲ保存スヘシ
 前項ノ簿冊ニシテ廢業又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ保存シ能ハサル事情アルトキハ管轄廳ニ於テ之ヲ領置シ其ノ期間内保存スヘシ
 第八條 舉動不審ト認メタル者ヨリ注文ヲ受ケタルトキハ其ノ印章ヲ注文者ニ交付セサル以前ニ於テ警察官吏ニ申告スヘシ
 第九條 廳長ハ警察官吏ヲシテ何時タリトモ營業ニ關スル簿冊及書類若ハ印章ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
 第十條 廳長ハ營業者ニシテ本令ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ノ停止ヲ命スルコトヲ得
 第十一條 廳長ハ此ノ規則ニ定メタル職權ヲ支廳長ニ委任スルコトヲ得但シ第一條及第十條ニ定メタル事項ハ此ノ限ニ在ラス
 第十二條 營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者ヲシテ其ノ責ニ任セシム
 第十三條 第一條ニ違背シ又ハ故ナク第九條ノ検査ヲ拒ミ若ハ第十條ノ停止命令ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十四條 第二條乃至第八條ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治三十八年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 從前縣又ハ廳ニ於テ發布シタル印刷營業ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

(第一號樣式)

印刷營業者臺帳 (用紙美濃紙)

許 可 番 號	許 可 日 月 年	氏 名	年 齡	本 籍	住 所	備 考	許 可 番 號	許 可 日 月 年	氏 名	年 齡	本 籍	住 所	備 考

(第二號樣式)

標札 (材料ハ板)

長二尺五寸

印 刻 營 業 住 所 氏 名

寸八幅

(第三號樣式)

印鑑簿 (用紙美濃紙)

年月日		營業者住所	
氏名		名	
印鑑簿			
經數表紙ヲ除キ何枚			
管轄 檢印			
順次	印鑑	注文及 年月日	注文者及 買得者 姓名年 住所
一	○	明治 年月日	何 年某
二	□	明治 年月日	何 年某
三	△	明治 年月日	何 年某
四	×	明治 年月日	何 年某
五	◇	明治 年月日	何 年某
六	◇	明治 年月日	何 年某
七	◇	明治 年月日	何 年某
八	◇	明治 年月日	何 年某
九	◇	明治 年月日	何 年某
十	◇	明治 年月日	何 年某
十一	◇	明治 年月日	何 年某
十二	◇	明治 年月日	何 年某
十三	◇	明治 年月日	何 年某
十四	◇	明治 年月日	何 年某
十五	◇	明治 年月日	何 年某
十六	◇	明治 年月日	何 年某
十七	◇	明治 年月日	何 年某
十八	◇	明治 年月日	何 年某
十九	◇	明治 年月日	何 年某
二十	◇	明治 年月日	何 年某
二十一	◇	明治 年月日	何 年某
二十二	◇	明治 年月日	何 年某
二十三	◇	明治 年月日	何 年某
二十四	◇	明治 年月日	何 年某
二十五	◇	明治 年月日	何 年某
二十六	◇	明治 年月日	何 年某
二十七	◇	明治 年月日	何 年某
二十八	◇	明治 年月日	何 年某
二十九	◇	明治 年月日	何 年某
三十	◇	明治 年月日	何 年某
三十一	◇	明治 年月日	何 年某
三十二	◇	明治 年月日	何 年某
三十三	◇	明治 年月日	何 年某
三十四	◇	明治 年月日	何 年某
三十五	◇	明治 年月日	何 年某
三十六	◇	明治 年月日	何 年某
三十七	◇	明治 年月日	何 年某
三十八	◇	明治 年月日	何 年某
三十九	◇	明治 年月日	何 年某
四十	◇	明治 年月日	何 年某
四十一	◇	明治 年月日	何 年某
四十二	◇	明治 年月日	何 年某
四十三	◇	明治 年月日	何 年某
四十四	◇	明治 年月日	何 年某
四十五	◇	明治 年月日	何 年某
四十六	◇	明治 年月日	何 年某
四十七	◇	明治 年月日	何 年某
四十八	◇	明治 年月日	何 年某
四十九	◇	明治 年月日	何 年某
五十	◇	明治 年月日	何 年某
五十一	◇	明治 年月日	何 年某
五十二	◇	明治 年月日	何 年某
五十三	◇	明治 年月日	何 年某
五十四	◇	明治 年月日	何 年某
五十五	◇	明治 年月日	何 年某
五十六	◇	明治 年月日	何 年某
五十七	◇	明治 年月日	何 年某
五十八	◇	明治 年月日	何 年某
五十九	◇	明治 年月日	何 年某
六十	◇	明治 年月日	何 年某
六十一	◇	明治 年月日	何 年某
六十二	◇	明治 年月日	何 年某
六十三	◇	明治 年月日	何 年某
六十四	◇	明治 年月日	何 年某
六十五	◇	明治 年月日	何 年某
六十六	◇	明治 年月日	何 年某
六十七	◇	明治 年月日	何 年某
六十八	◇	明治 年月日	何 年某
六十九	◇	明治 年月日	何 年某
七十	◇	明治 年月日	何 年某
七十一	◇	明治 年月日	何 年某
七十二	◇	明治 年月日	何 年某
七十三	◇	明治 年月日	何 年某
七十四	◇	明治 年月日	何 年某
七十五	◇	明治 年月日	何 年某
七十六	◇	明治 年月日	何 年某
七十七	◇	明治 年月日	何 年某
七十八	◇	明治 年月日	何 年某
七十九	◇	明治 年月日	何 年某
八十	◇	明治 年月日	何 年某
八十一	◇	明治 年月日	何 年某
八十二	◇	明治 年月日	何 年某
八十三	◇	明治 年月日	何 年某
八十四	◇	明治 年月日	何 年某
八十五	◇	明治 年月日	何 年某
八十六	◇	明治 年月日	何 年某
八十七	◇	明治 年月日	何 年某
八十八	◇	明治 年月日	何 年某
八十九	◇	明治 年月日	何 年某
九十	◇	明治 年月日	何 年某
九十一	◇	明治 年月日	何 年某
九十二	◇	明治 年月日	何 年某
九十三	◇	明治 年月日	何 年某
九十四	◇	明治 年月日	何 年某
九十五	◇	明治 年月日	何 年某
九十六	◇	明治 年月日	何 年某
九十七	◇	明治 年月日	何 年某
九十八	◇	明治 年月日	何 年某
九十九	◇	明治 年月日	何 年某
一百	◇	明治 年月日	何 年某

○臺灣總督府令第十號 (官報 三月四日)

臺灣地方稅規則施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年二月二十二日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

第七條第二項ヲ削ル

第九條中「養魚池」年稅 每一甲一圓 一甲未滿ノ端數ハ一甲ニ計算ス」及「葉煙草耕作地」年稅 每一甲四圓 一甲未滿ノ端數ハ一甲ニ計算ス」ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十八年度分ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十六年二月二日臺灣總督府令第六號臺灣地方稅規則施行規則第七條第二項ハ煙草ニ關スル營業ニ就キテノ課稅標準及賦課稅率ナリ

○臺灣總督府令第十一號 (官報 三月四日)

明治三十七年三月府令第二十四號臺灣公學校規則中左ノ通改正ス

明治三十八年二月二十五日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

第四十五條 蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ノ教育ニ關シテハ此ノ規則ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月 臺灣總督府令 第十號 第十一號

○臺灣總督府令第十二號(官報三月十一日)

臺灣地方稅規則施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第四條 地租附加稅ハ臺灣廳ハ地租三分ノ一其ノ他ノ廳ハ地租五分ノ一ヲ以テ一箇年ノ定率トス

第七條中「賣上金額小賣 千分ノ三」ヲ「賣上金額小賣 千分ノ二」ニ改ム

第九條中「二等 收入見込金額五十圓以上一圓ヲ 二等 收入見込金額五十圓以上一圓」

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

「長三間以上日本形支那形 二等 收入見込金額五十圓以上五十圓」ニ

本令ハ明治三十八年度分ヨリ之ヲ施行ス
○臺灣總督府令第十三號(官報三月十一日)
臺北電氣作業所電氣使用規則左ノ通相定ム
明治三十八年三月四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺北電氣作業所電氣使用規則

第一條 電氣供給區域ハ臺北電氣作業所長之ヲ公示ス

第二條 電燈ノ種類ハ白熱電燈、弧光電燈ノ二トシ其ノ點火方法ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 一定時燈 日没ヨリ日出マテ點火スルモノ

二 不定時燈 電量ヲ計リテ點火スルモノ

三 臨時燈 臨時期間ヲ定メ點火スルモノ

第三條 電燈ヲ使用セントスル者ハ臺北電氣作業所ニ申込ムヘシ

既設電燈ノ變更、中止若ハ廢止ヲ要スルトキハ五日以前ニ臺北電氣作業所ニ申込ムヘシ

電燈使用者ノ名義ヲ變更セントスルトキハ雙方連署シ臺北電氣作業所ニ届出ツヘシ

第四條 電燈使用ノ申込ニ對シテハ作業上ノ都合ニ依リ之ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第五條 電燈ニ關スル工事ハ取付費納付済ノ上之ヲ施設ス但シ官公署其ノ他臺北電氣作業所ニ於

テ前納ノ必要ナント認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 電燈其ノ他附屬器具及電量計ハ當分ノ内臺北電氣作業所ニ於テ之ヲ設備ス

第七條 屋内白熱電燈取付費ハ左ノ率ニ依リ一家屋毎ニ徵收ス

白熱電燈十燈迄 一燈ニ付金一圓

白熱電燈十一燈ヨリ三十燈迄 一燈ニ付金七十錢

白熱電燈三十一燈ヨリ百燈迄 一燈ニ付金五十錢

白熱電燈百一燈以上及弧光電燈取付クノ場合ハ相當費用ヲ徵收ス

取除費ハ取付費ト同額ヲ徵收ス

第八條 家屋ノ構造其ノ他ノ事由ニ因リ特別ノ工事ヲ要スルトキハ前條定額ノ外ニ相當費用ヲ増徴ス

第九條 屋内電燈用「コード」ハ普通木綿卷ニシテ床面ヲ距ル三尺ニ達スルマテノ長ヲ普通架設トシ此ノ以上ノ延長ヲ望ム者アルトキハ相當費用ヲ増徴シテ之ニ應スルコトアルヘシ但シ特別延長ハ十尺ヲ限度トス

第十條 屋外電燈ノ取付費及取除費ハ工事ノ模様ニ依リ相當費用ヲ徴收ス

第十一條 電燈ノ位置、燭力其ノ他器具ノ變更ヲナストキハ相當費用ヲ徴收ス

電燈球ノ斷心、滅光若ハ破損ニシテ交換ヲ要スルトキハ一燈ニ付金四十錢ヲ徴收ス但シ二十五燭光以上ハ相當費用ヲ徴收ス

點火三日以内ニ使用者ノ故意又ハ過失ニ因ラサル斷心、滅光若ハ破損ノ爲電燈球ヲ交換スルトキハ前項ノ費用ヲ徴收セス

第十二條 定時燈點燈料ハ月額トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ徴收ス

白熱電燈點燈料

燭力	內燈一燈ニ付	外燈一燈ニ付
五燭光	金六十錢	金五十錢
八燭光	金八十錢	金六十錢
十燭光	金一圓	金八十錢
十六燭光	金一圓二十錢	金一圓
二十五燭光	金一圓六十錢	金一圓四十錢

三十二燭光	金二圓	金一圓八十錢
五十燭光	金三圓	金二圓五十錢
百燭光	金五圓	金四圓
百五十燭光	金七圓	金六圓
二百燭光	金十圓	金八圓

弧光電燈點燈料

燭力	一燈ニ付
五百燭光	金十五圓
千二百燭光	金二十圓
二千燭光	金三十圓

內燈トハ屋内及庭園内ニ使用スルモノヲ謂ヒ外燈トハ門燈、軒燈、道路、公園等屋外ニ使用スルモノヲ謂フ

第十三條 不定時燈點燈料ハ左ノ指定「ワット」時ヲ一箇月ノ使用最低トシ使用ト否トニ拘ハラズ之ニ對スル定額ヲ徴收シ指定「ワット」時ニ超過シタルトキハ五十「ワット」時一錢ノ割合ヲ以テ精算追徴ス

電量計種類	指定電量	定額
三十燈用	四萬五千「ワット」時	金九圓
五十燈用	七萬五千「ワット」時	金十五圓
百燈用	十五萬「ワット」時	金三十圓

百五十燈用 二十二萬五千「ワット」時 金四十五圓

第十四條 點燈料ハ其ノ料金ノ額ニ依リ割引ヲ爲ス左ノ如シ

一箇月點燈料 割引率

十圓以上三十圓未満 百分ノ五

三十圓以上五十圓未満 百分ノ七

五十圓以上百圓未満 百分ノ十

百圓以上 百分ノ十二

第十五條 白熱電燈ハ貸付料トシテ一燈ニ付一箇月金十錢ヲ徵收ス

第十六條 定額點燈料及定額貸付料ハ前月末日限り納付スヘシ

第十七條 不定時燈點燈料定額以上ノ分ハ翌月ノ定額點燈料ト同時ニ其ノ精算額ヲ合セテ納付スヘシ

第十八條 新設又ハ再點ノ點燈料ハ燈火ヨリ五日限り其ノ月分ヲ日割ヲ以テ納付スヘシ

第十九條 中止又ハ廢燈ノ際ニ於ケル其ノ月ノ點燈料ハ之ヲ返付セス

第二十條 臨時點燈料ハ點火以前ニ指定ノ料金ヲ納付スヘシ

第二十一條 官公署ニシテ第十六條第十八條及第二十條ノ規定ニ依リ難キトキハ翌月五日限り前月分ヲ納付スヘシ

第二十二條 臺北電氣作業所ノ都合ニ依リ送電ヲ中止シタルトキハ日割計算ニ依リ點燈料ヲ減額ス但シ一夜ニ滿タサルトキハ之ヲ減額セス

第二十三條 前條減額點燈料ハ其ノ月ニ於テ之ヲ返付セス翌月ノ點燈料納付ノ際差引計算スルモ

ノトス但シ中止又ハ廢燈ノ月ニ當リタルトキハ其ノ減額分ヲ返付ス

第二十四條 月額點燈料日割計算法ハ月ノ大小ニ拘ハラズ三十日ヲ以テ除算シ現日數ニ乘シ其ノ金額ヲ定ム但シ錢位未滿ノ端數ハ切捨トス

第二十五條 電燈使用者ハ電燈電量計及電燈ニ關スル器具機械ヲ濫リニ變更修理スヘカラス

第二十六條 前條ニ背キ電燈數又ハ燭力ヲ増加シタルトキハ其ノ發覺ノ日ヨリ前回臨檢シタル日ニ溯リ其ノ增加分ニ對シ定額點燈料ノ三倍ヲ納付セシム

第二十七條 第二十五條ニ背キ設備シタル器具機械ハ之ヲ取除キ撤去改作ノ爲要シタル工事費其ノ他一切ノ費用ヲ辨償セシム

第二十八條 第二十五條ニ背キ電燈其ノ他器具機械ヲ變更修理シ又ハ他ノ設備ヲ爲シ爲ニ作業上其ノ他ニ損害ヲ及ボシタルトキハ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十九條 電燈其ノ他電燈ニ關スル器具機械保安ノ爲時時所員ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス當該監督官吏臨檢ノ場合モ亦同シ

第三十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ送電ヲ中止スルコトアルヘシ

一 天災事變等ノ爲發電所、配電所、其ノ他ニ故障ヲ生シ又ハ生セントスル虞アルトキ

二 發電所、配電所其ノ他ノ修繕等ノトキ

三 點燈料、貸付料其ノ他納金ノ滯納又ハ不納ノトキ

四 所員ノ臨檢ヲ拒ミタルトキ

前項第二號ノ場合ハ送電中止五日前ニ之ヲ通知スルモノトス

第三十一條 電扇ハ定著、不定著ノ二種トシ左ノ月額電扇料ヲ徵收ス但シ臺北電氣作業所所定ノ

種類ニ依ル

種類	類	箇數	料 金
十二吋電扇	一基	金二圓五十錢	
十六吋電扇	一基	金三圓五十錢	
五十四吋電扇	一基	金六圓	

電扇ヲ設置シタルトキハ使用ト否トヲ問ハズ第一項ノ料金ヲ徴收ス但シ一箇月以上中止スルトキハ此ノ限ニ在ラス

電燈使用者ニシテ電量計ノ設備アルトキハ其ノ電量計ノ示ス總電量ヲ電燈點燈料ノ計算ニ依リ點燈料トシテ徴收シ仍左ノ月額電扇貸付料ヲ徴收ス

種 類	箇數	貸 付 料
十二吋電扇	一基	金一圓三十錢
十六吋電扇	一基	金一圓八十錢
五十四吋電扇	一基	金四圓

第三十二條 電扇ノ供給期ハ四月一日ヨリ十一月三十日迄トシ當分ノ内夜間ニ限り供給ス但シ使用者ノ請求ニ依リ制限外ト雖使用セシムルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ別ニ相當費用ヲ徴收ス

第三十三條 電扇ニ關シ特ニ規定セサルモノハ電燈ニ關スル各條項ヲ適用ス

第三十四條 此ノ規則ニ依ル料金共ノ他ノ徴收金ハ臺北電氣作業所長之ヲ徴收ス

○臺灣總督府令第十四號(官報三月十七日)

明治三十一年六月府令第三十七號臺灣總督府法院執達規則施行細則中左ノ通改正ス

第三十六條中「及官沒金」ノ下ニ「品追徴金」ヲ加フ 臺灣總督男爵兒玉源太郎

(參照)

臺灣總督府令第三十七號臺灣總督府法院執達規則施行細則(明治三十一年七月十五日官報)抄錄
第三十六條 罰金、料、通料、刑罰、訴訟費用、私訴ノ費用ヲ除ク(及官沒金)ノ類ニシテ滞納者アル場合ニ於テ執達者ニ命シテ強制執行ニ依リ徴收セシムルトキハ左ノ手續ニ依ルヘシ

○臺灣總督府令第十五號(官報三月十七日)

明治三十五年七月府令第五十二號臺灣總督府國語學校規則中左ノ通改正ス 臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年三月十日

第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

中學部ニ補習科ヲ附設ス

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ

補習科ニ入學スヘキ生徒ハ中學部ヲ卒業セシ者トス

第十九條 補習科ノ教科目ハ第十二條ノ教科目中ニ就キ學校長之ヲ定ムヘシ其ノ修業期限ハ六箇月トス

附屬學校並講習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

(參照)

臺灣總督府令第五十二號臺灣總督府國語學校規則(明治三十五年七月十六日官報)抄錄
第十九條 附屬學校並講習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

○臺灣總督府令第十六號(官報 三月二十四日)
幼稚園ニ關スル規程左ノ通相定ム

明治三十八年三月十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

幼稚園ニ關スル規程

- 第一條 幼稚園ハ滿三歳ヨリ尋常小學校ニ入學スルマテノ幼兒ヲ保育スルヲ以テ目的トス
- 第二條 幼兒保育ノ要旨、項目及時數ニ關シテハ明治三十三年ハ文部省令第十四號小學校令施行規則第九章ノ規定ヲ準用ス
- 第三條 幼稚園ノ幼兒定員ハ八十人保母一人ノ擔任スル幼兒ハ四十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ八十人ヲ百五十人四十八人ヲ五十人マテニ増スコトヲ得
- 第四條 幼稚園ノ經費ハ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第五條 幼稚園ノ保育料ハ一人ニ付一箇月金二圓五十錢トス但シ休業又ハ缺席全月ニ涉リタルトキハ其ノ月ノ保育料ヲ徴收セス
- 第六條 幼稚園ノ保育料ハ地方稅ノ收入トシ之カ收納ニ關シテハ臺灣小學校授業料收納ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第十七號(官報 三月三十一日)

明治三十七年六月府令第五十一號中左ノ通改正ス

明治三十八年三月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ補償金ヲ金庫ニ供託スヘシ

- 一 補償金ノ交付ニ付爭アルモノ
- 二 第三債務者トシテ差押ヘラレタルモノ
- 三 權利者不在又ハ其ノ他ノ事故ノ爲明治三十八年三月三十一日マテニ交付シ能ハサルモノ
- 四 法院ニ繫屬中ニシテ明治三十八年三月三十一日マテニ判決確定セサルモノ
- 五 法院ニ於テ判決確定セルモ明治三十八年三月三十一日マテニ明治三十七年律令第六號第七條ノ期間滿了セサルモノ

〔參照〕

臺灣總督府令第五十一號明治三十七年律令第六號施行規則(明治三十七年六月二十四日官報)抄錄
第十一條 補償金ノ交付ニ付爭アルトキ又ハ差押アリタルトキハ補償金ハ之ヲ金庫ニ供託スヘシ

○臺灣總督府令第十八號(官報 三月三十一日)

電話ニ關スル料金ヲ郵便切手ヲ以テ徴收シ又ハ還附スヘキ場合ニ錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ錢位ニ切上ケ計算ス

明治三十八年三月二十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十九號(官報 三月三十一日)

明治三十七年十一月府令第八十五號電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス
本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年三月二十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

地 域	一通話時 ノ電話料	一回ノ電 話出料
彰化 臺中間	十 錢	十 錢
彰化 臺北間	六十 錢	十 錢
彰化 基隆間	一 圓	十 錢
彰化 淡水間	七十 錢	十 錢

○臺灣總督府令第二十號(官報四月十一日)
臺灣煙草專賣規則施行規則左ノ通相定ム

明治三十八年三月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣煙草專賣規則施行規則

第一條 煙草ヲ耕作セムトスル者ハ每年九月一日ヨリ同月二十日マテニ煙草耕作地ノ位置地積及煙草ノ種類本數乾燥場並藏置場ノ位置ヲ記載シ管轄地方廳ヲ經由シテ第一號様式ノ申請書ヲ臺灣總督府專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

前項耕作ノ許可ヲ受ケタル者ニハ第二號様式ノ許可證ヲ交付スヘシ

煙草ノ試作ニ關シテハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ煙草耕作者タルコトヲ得ス

- 一 煙草元賣捌人煙草仲賣捌人及煙草小賣人
- 二 煙草製造專用ノ器具機械又ハ卷紙ノ製作者販賣者又ハ藏置者
- 三 前各號ノ一ニ該當スル者ト同一ノ家ニ在ル者又ハ其ノ同居者

第三條 煙草耕作者又ハ試作者耕作地ノ位置地積又ハ煙草ノ種類本數乾燥場藏置場ヲ變更増減シ又ハ耕作、試作ヲ廢止セムトスルトキハ管轄地方廳ヲ經由シテ許可證並第一號様式ニ準シ申請書ヲ臺灣總督府專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

第四條 相續ニ因ルノ外煙草ノ耕作ヲ承繼セムトスル者ハ管轄地方廳ヲ經由シ許可證並第三號様式ノ申請書ヲ臺灣總督府專賣局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

相續ニ因リ煙草ノ耕作ヲ承繼シタル者ハ管轄地方廳ヲ經由シ許可證並第四號様式ノ屆書ヲ臺灣

總督府專賣局ニ差出シ許可證ノ交付ヲ受クヘシ

第五條 煙草耕作者耕作地積ヲ減少シ又ハ耕作ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ耕作ヲ承繼スル者ナキトキハ其ノ現存スル煙草又ハ煙草苗ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ相繼ノ處置ヲ爲スヘシ臺灣煙草專賣規則第十七條ニ依リ耕作、試作ノ許可ヲ取消サレタルトキ亦同シ

煙草耕作者死亡シ承繼者ナキトキハ管理人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 煙草耕作者又ハ試作者許可證ヲ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ臺灣總督府專賣局ニ申請スヘシ

煙草耕作者死亡シ承繼者ナキトキハ管理人ヨリ許可證ヲ添ヘ管轄地方廳ヲ經由シテ其ノ旨臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

臺灣煙草專賣規則第十七條ニ依リ耕作、試作ノ許可ヲ取消サレタルトキハ管轄地方廳ヲ經由シテ許可證ヲ臺灣總督府專賣局ニ返納スヘシ

第七條 煙草耕作者煙草ノ移植ヲ終リタルトキハ殘存セル煙草苗ハ之ヲ廢棄スヘシ但シ移植後三週間ヲ限リ豫備田トシテ必要ノ本數ヲ保存スルコトヲ得

第八條 臺灣煙草專賣規則第七條ニ依リ葉煙草ノ收穫高ヲ査定スル場合ニ於テハ煙草耕作者ハ之ニ立會フヘシ

第九條 煙草耕作者災害其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ耕作煙草ニ損害ヲ受ケタルトキハ事由ヲ具シ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

第十條 煙草耕作者一番葉ノ收穫ヲ終リタルトキハ幹根ヲ拔除シ其ノ幹ニ附著スル葉煙草ハ之ヲ廢棄スヘシ

種子ノ採取又ハ二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスルトキハ本數ヲ定メ豫メ臺灣總督府專賣局ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ採取又ハ收穫ヲ終リタルトキハ第一項ノ處置ヲ爲スヘシ

第十一條 葉煙草ハ乾燥、調理シタル後ニアラサレハ納付スルコトヲ得ス

第十二條 乾燥、調理ノ際生シタル葉屑ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ廢棄スヘシ

第十三條 煙草耕作者又ハ試作者納付ノ爲葉煙草ヲ運送スルトキハ許可證ヲ携帯スヘシ

第十四條 乾燥、調理及包裝ノ不完全ナル葉煙草ハ納付者ヲシテ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第十五條 葉煙草ハ其ノ耕作地乾燥場、藏置場又ハ收納官署ノ外他ニ之ヲ運送スルコトヲ得ス

臺灣總督府專賣局長ハ取締上必要ト認メタルトキハ葉煙草運送ノ通路及時間ヲ指定スルコトヲ得

第十六條 煙草賣捌人ハ元賣捌人、仲賣捌人ノ二種トス

第十七條 煙草元賣捌人ハ政府ヨリ煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草仲賣捌人ニ賣渡スモノトス

煙草仲賣捌人ハ煙草元賣捌人ヨリ煙草ヲ買受ケ之ヲ煙草小賣人ニ賣渡スモノトス

煙草小賣人ハ煙草仲賣捌人ヨリ煙草ヲ買受ケ之ヲ消費者ニ賣渡スモノトス

第十八條 煙草元賣捌人ハ煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人ヲ兼ヌルコトヲ得ス

煙草元賣捌人ハ煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人ト其ノ營業場ヲ同フスルコトヲ得ス

第十九條 煙草元賣捌人ハ臺灣總督府專賣局長之ヲ指定ス

第二十條 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人ヲラムトスル者ハ各營業場ノ位置ヲ記載シ第五號様式ノ申請書ヲ管轄地方廳ニ差出シ各營業場毎ニ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ニハ各營業場毎ニ第六號様式ノ營業鑑札ヲ交付スヘシ
 煙草小賣人行商ヲ爲サムトスルトキハ管轄地方廳ニ申請シテ第七號様式ノ行商鑑札ヲ受ケ行商
 ノ際之ヲ携帶スヘシ
 前二項ノ鑑札ハ讓渡シ讓受ケ又ハ貸借スルコトヲ得ス
 第二十一條 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人其ノ營業ヲ廢止セムトスルトキハ鑑札ヲ添ヘ其ノ旨管
 轄地方廳ニ届出ヘシ
 第二十二條 相續ニ因ルノ外煙草仲賣捌業又ハ煙草小賣業ヲ承繼セムトスル者ハ鑑札ヲ添ヘ第八
 號様式ノ申請書ヲ管轄地方廳ニ差出シ許可ヲ受クヘシ
 相續ニ因リ煙草仲賣捌業又ハ煙草小賣業ヲ承繼シタル者ハ鑑札並第九號様式ノ届書ヲ管轄地方
 廳ニ差出シ鑑札ノ交付ヲ受クヘシ
 第二十三條 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人其ノ鑑札ヲ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ之カ再交付ヲ
 管轄地方廳ニ申請スヘシ
 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人死亡シ承繼者ナキトキハ管理人ヨリ鑑札ヲ添ヘ管轄地方廳ニ届出
 ヘシ
 臺灣煙草專賣規則第十七條ニ依リ其ノ營業ノ許可ヲ取消サレタルトキハ鑑札ヲ管轄地方廳ニ返
 納スヘシ
 第二十四條 煙草仲賣捌營業鑑札、煙草小賣營業鑑札及煙草小賣行商鑑札ハ下付手数料一枚ニ付
 金二十錢トス再交付及書換ノトキ亦同シ
 第二十五條 煙草仲賣捌人及煙草小賣人其ノ營業場ノ位置ヲ變更シタルトキハ管轄地方廳ニ届出

第二十六條 地方廳ニ於テ第二十條第一項及第二十二條第一項ノ申請ヲ許可シ第二十一條、第二
 十三條第二項及第二十五條ノ届出ヲ受ケ第二十二條第二項ニ依リ鑑札ヲ交付シ又ハ第二十三條
 第三項ニ依リ鑑札ノ返納ヲ受ケタルトキハ其ノ都度之ヲ臺灣總督府專賣局ニ通知スヘシ
 第二十七條 煙草元賣捌人、煙草仲賣捌人及煙草小賣人ハ營業場ノ見易キ場所ニ第十號様式ノ招
 牌ヲ掲クヘシ
 第二十八條 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人其ノ營業ヲ廢止シ承繼者ナキトキ若ハ其ノ營業ノ許可
 ヲ取消サレタルトキ現存スル煙草ハ其ノ販賣ヲ爲シタル煙草元賣捌人若ハ煙草仲賣捌人ニ之カ
 買戻ヲ請求スルコトヲ得
 煙草仲賣捌人又ハ煙草小賣人死亡シ承繼者ナキトキハ管理人ニ於テ前項買戻ノ請求ヲ爲スコト
 ヲ得
 第二十九條 煙草元賣捌人又ハ煙草仲賣捌人前條ニ依リ煙草買戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒
 ムコトヲ得ス
 第三十條 煙草元賣捌人及煙草仲賣捌人ハ第十一號及第十二號様式ノ帳簿ヲ調製スヘシ仍煙草
 元賣捌人ニ在リテハ第十三號様式ノ製造煙草受拂月計表ヲ調製シ毎月五日マテニ臺灣總督府專
 賣局ニ差出スヘシ
 煙草小賣人ハ帳簿ヲ調製シ各種煙草ノ買受ヲ爲シタル月日及煙草ノ名稱、箇數、代金及買受先ヲ
 明記スヘシ
 第三十一條 煙草製造専用ノ器具機械又ハ卷紙ヲ製作シ、販賣シ又ハ藏置セムトスル者ハ管轄地

明治 年

煙草耕作許可證

住所 氏名

第 號

面	裏	許 可 事 項		事 由
		區 (堡里)	街 (庄)	
計				

一 乾燥場何何(居宅構内又ハ街(庄)土地番(何誰所有)何建物)
 一 曬置場何何(居宅構内又ハ街(庄)土地番(何誰所有)何建物)
 要 例
 一 一筆ノ土地ニシテ煙草ノ耕作ニ當所以上ニ分ルモノハ地積ノ下ニ適宜ノ符合ヲ附シ地積以下各欄共區別記載シ又畝率ノ土地ニシテ其ノ耕作ニ當所トナルモノハ其ノ地積ヲ列記シ本數地積ハ合シテ記載スヘシ
 二 二番葉ノ收穫ヲ爲サムトスル者ハ事由欄ニ當所毎ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第三號樣式
 煙草耕作承繼許可申請書

一事由 何何

年月日

臺灣總督府專賣局長宛

許可番號

住所 耕作者 氏 名

住所 承繼者 氏 名

計	區 (堡里)	街 (庄)	土地番	地積種類本數	何箇所

一 乾燥場何何(居宅構内又ハ街(庄)土地番(何誰所有)何建物)
 一 曬置場何何(居宅構内又ハ街(庄)土地番(何誰所有)何建物)
 前記ノ通相違ナキコトヲ證ス

年月日

要 例
 一 乾燥場及曬置場ハ承繼者ノ分ヲ記載スヘシ

第四號樣式
 煙草耕作承繼申請書

一事由 耕作者何誰(遺産)相繼

年月日

住所 承繼者 氏 名

住所 何認長 氏 名

臺灣總督府專賣局長宛

前記ノ通相違ナキコトヲ證ス

年月日

何廳長 氏

名 國

第十六號樣式

製造煙草(又ハ葉煙草)現在高申告書

明治三十八年三月三十一日(明治三十八年七月三十一日)ニ於テ所持スル製造煙草(又ハ葉煙草)左ノ通

種類	名稱	一箇ノ本數(量目)	箇	數	本數(量目)
口付	何	何			
兩切	何	何			
葉卷	何	何			
刻	何	何			
臺灣刻	何	何			
葉煙草	本島產				
同	清國產				

營業場所在地

煙草製造業者葉煙草所有者 氏

名 國

臺灣總督府專賣局長宛

年月日

第十七號樣式

煙草製造專用器具機械及卷紙現在高申告書

明治三十八年三月三十一日(明治三十八年七月三十一日)ニ於テ所有スル煙草製造専用ノ器具機械及卷紙左ノ通

名稱	箇	備	考
紙卷煙草用何何			
口付煙草用何何			
葉卷煙草用何何			
刻煙草用何何			
臺灣刻煙草用何何			

營業場所在地

煙草製造業者 氏

名 國

年月日

臺灣總督府專賣局長宛

○臺灣總督府令第二十一號(官報四月十二日)

明治三十一年六月府令第三十七號臺灣總督府法院執達規則施行細則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月三十一日

臺灣總督府爵兒玉源太郎

第六條第一項中「書類ヲ其地ノ街庄社長ニ預ケ置クヘシ」ヲ「其交付スヘキ書類ヲ本島人及清國人ニ在リテハ其地ノ街庄社長ニ内地人及清國人以外ノ外國人ニ在リテハ其地ノ廳長又ハ支廳長ニ預ケ置クヘシ但内地人ニ在リテハ廳又ハ支廳所在地外ナルトキハ其地ノ警察官吏派出所巡查ニ預ケ置

クコトヲ得ニ改ム

附則

本令ハ明治三十八年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第三十七號臺灣總督府法院執達規則施行細則(明治三十一年七月十五日官報)抄録
第六條 執達者送達ヲ受クヘキ人ニ出合ハス且送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テモ之ヲ受クヘキ者アラサルトキハ當該ノ其地ノ
街庄社長三預ケ置クヘシ

○臺灣總督府令第二十二號(官報四月十一日)

明治三十七年七月府令第五十七號臺北仁濟院臺南慈惠院及澎湖普濟院規則中左ノ通改正ス

明治三十八年三月三十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條中「宜蘭廳ヲ」ノ下ニ「臺南慈惠院ノ設立區域中ニ臺東廳ヲ」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第五十七號臺北仁濟院臺南慈惠院及澎湖普濟院規則(明治三十七年七月十九日官報)抄録
第一條 各院ノ位置及設立區域ハ從前ノ位置及設立區域ニ依ル但シ臺北仁濟院ノ設立區域中ニ宜蘭廳ヲ加フ

○臺灣總督府令第二十三號(官報四月十一日)

明治三十六年三月府令第二十一號中食鹽專賣事務取扱支局管轄區域左ノ通改正ス

明治三十八年四月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

食鹽專賣事務取扱支局ノ名稱、位置及管轄區域

管轄局名	位置	管轄區域
臺灣總督府專賣局	臺北大加蚋堡	基隆廳、宜蘭廳、臺北廳、深坑廳、桃仔園廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	新竹廳竹北一堡	新竹廳、苗栗廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	彰化廳線東堡	彰化廳、南投廳、臺中廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	鹿港廳大坵田	斗六廳、嘉義廳所管一圓、鹽水廳所管大坵田、西堡、內田庄、考試庄、布袋庄、前東港庄、新塢庄
臺灣總督府專賣局	北港廳學甲堡	鹽水廳所管(布袋嘴支局所管ヲ除ク)一圓、澎湖
臺灣總督府專賣局	臺南廳新營里	臺南廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	臺南廳大竹里	臺南廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	臺南廳鳳山堡	臺南廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	臺南廳同安廳	臺南廳所管一圓
臺灣總督府專賣局	臺南廳臺東廳	臺南廳所管一圓

○臺灣總督府令第二十四號(官報五月三日)
明治三十七年九月府令第七十二號中左ノ一號ヲ追加ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎
一煙草仲賣捌營業鑑札、煙草小賣營業鑑札、煙草小賣行商鑑札ノ下付、再下付及書換手数料

〔參照〕

明治三十七年八月廿四日臺灣總督府令第七十二號ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ナリ

○臺灣總督府令第二十五號(官報五月二日)

明治三十二年八月府令第二百二號中左ノ通改正ス

明治三十八年四月十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一項中官鹽賣捌組合ヲ官鹽賣捌總館ニ「鹽務總(支)館」ヲ「鹽務支館」ニ改メ「總館又ハ」ヲ削ル
第二項中總館又ハ及但書ヲ削ル
第一號樣式及第二號樣式中「何鹽務總(支)館」及「某鹽務總(支)館」ヲ「何鹽務支館」ニ改ム

附則

本令ハ明治三十八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治三十二年九月廿一日臺灣總督府令第二百二號ハ食鹽發送票及通行票樣式ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二十六號(官報五月二日)

明治三十三年三月府令第二十六號食鹽請賣規則中左ノ通改正ス

明治三十八年四月十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條中「鹽務總(支)館」ヲ「鹽務支館」ニ「店頭」ニテ需用者ニ「店頭」ニテ定價ヲ以テ需用者ニ食鹽

ヲニ改ム

第二條中ノ願書ニ其管轄鹽務總館ノ身元保證書ヲ添ヘヲニ依リニ改ム

第四條中賣買讓與ヲ讓渡シ讓受ケニ改ム

第六條第七條及第九條 削除

第十條中鹽務總(支)館ヲ鹽務支館ニ改ム

第十一條中相續者ヲ遺族ニ他ノ鹽務總(支)館管轄内ヲ所轄應管轄外ニ改ム

第十二條第一項中鹽務總(支)館ヲ所轄應管轄外ニ改メ第二項ヲ削ル

第十三條中鹽務總(支)館ヲ鹽務支館ニ改ム

第十四條中十錢ヲ二十錢ニ改ム

書式第一號中別紙何地鹽務總館ノ身元保證書相添ヲ削ル

書式第一號ノ二三號及第五號ヲ削ル

附則

本令ハ明治三十八年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第二十六號食鹽貯藏規則(明治三十三年三月二十三日官報抄録)

第一條 此規則ニ於テ食鹽請買入ト稱スルハ鹽務總(支)館ヨリ買受ケ出賣又ハ店頭ニテ需用者ニ販賣スル者ヲ謂フ

第二條 食鹽ノ請買ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ其管轄鹽務總館ノ身元保證書ヲ添ヘ所轄應管轄外ニ願出テ請買證札ヲ受ケヘシ

第四條 食鹽請買證札及出賣證札ハ買買讓與及質借スルコトヲ得ス

第六條 食鹽請買人管轄外ノ鹽務總(支)館ヨリ食鹽ヲ買受ケントスルトキハ管轄鹽務總(支)館ノ承認ヲ受ケヘシ

第七條 鹽務總(支)館ニ於テ管轄外ノ請買人食鹽ノ買下ヲ爲シタルトキハ五日以内ニ其品位斤數及買受人ノ住所氏名年月日ヲ管轄鹽務總(支)館ニ通知スヘシ

第九條 鹽務總(支)館ハ第五號書式ノ帳簿ヲ備ヘ請買人毎ニ口座ヲ設ケ食鹽ノ買下ヲ記入スヘシ

ヲニ改ム

第十條 請買人鹽務總(支)館ニ食鹽ノ買下ヲ求ムルトキハ請買證札ヲ示スヘシ

第十一條 請買人左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄應管轄外ニ願出テ請買證札及出賣證札ヲ返納スヘシ但死亡ニ係ル者ハ相續者ヨリ返納スヘシ

一 廢業又ハ死亡シタルトキ

二 請買業ヲ禁止セラレタルトキ

三 他ノ鹽務總(支)館管轄内ニ轉住スルトキ

第十二條 請買人左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄應管轄外ニ願出テ請買證札及出賣證札ヲ書換又ハ再下付ヲ請フヘシ

一 證札ヲ毀損又ハ亡失シタルトキ

二 請買人及出賣人ノ代替又ハ改名シタルトキ

三 請買人其鹽務總(支)館管轄内ニ於テ轉住シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ出願ノ際從前ノ證札ヲ差出スヘシ但證札ヲ亡失シタルトキハ此限ニアラス

第十三條 請買人第十一條第一號及第二號ニ依リ請買證札ヲ返納スル場合ニ於テハ食鹽ノ買受アリタルトキハ其食鹽ヲ買受ケタル鹽務總(支)館ニ送致シ買下ヲ受ケタル價格ヲ以テ買上ヲ請フコトヲ得

第十四條 請買證札及出賣證札下付手数料ハ一枚ニ付金十錢トス再下付及書換ノトキ亦同シ

○臺灣總督府令第二十七號(官報 五月八日)

懸賞又ハ富籤類似其ノ他射倖ノ方法ヲ用井ソトヲ提供スルノ行爲ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルモノハ廳長ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項禁止又ハ制限ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ命令ニ違背シタル者ハ一月以下ノ重禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

明治三十八年四月二十七日

臺灣總督府令第二十八號(官報 五月八日)

○臺灣總督府令第二十八號(官報 五月八日)

明治三十七年十一月府令第八十五號中電話料及電話呼出料ノ部ニ左ノ通追加ス

本令ハ明治三十八年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年四月二十九日

臺灣總督府令第二十七號 第二十八號

地域

地域	一通話時ノ電話料	電話呼出料
宜蘭	三十錢	十錢
宜蘭	五十錢	十錢
宜蘭	三十五錢	十錢
宜蘭	二十五錢	十錢
宜蘭	十五錢	十錢
宜蘭	五十五錢	十錢

○臺灣總督府令第二十九號(官報五月十六日)

明治三十八年三月府令第十三號臺北電氣作業所電氣使用規則中左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第五條中取付費ノ下ニ又ハ取付器具拂下代金ノ全部若ハ一部ヲ加フ
 第六條 電燈其ノ他附屬器具及電量計ハ當分ノ内臺北電氣作業所ニ於テ之ヲ設備ス但シ使用者ノ希望ニ依リ全部若ハ一部ヲ相當代價ヲ以テ拂下ケ作營スルコトアルヘシ
 前項但書ノ拂下代價ハ六箇月以内ノ月賦納トスルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ月數ニ應シ相當代價ノ百分ノ六以内ヲ増徴ス
 第三十條第一項第四號中所員ヲ「前條」ニ改ム

〔參照〕

- 臺灣總督府令第十三號臺北電氣作業所電氣使用規則(明治三十八年三月十一日官報)抄録
- 第五條 電燈ニ關スル工事ハ取付取納付費ノ上之ヲ施設ス但シ官公署其ノ他臺北電氣作業所ニ於テ前納ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 電燈其ノ他附屬器具及電量計ハ當分ノ内臺北電氣作業所ニ於テ之ヲ設備ス
- 第三十條 左ニ掲タル場合ニ於テハ送電ヲ中止スルコトアルヘシ
- 四 所員ノ職務ヲ拒ミタルトキ

○臺灣總督府令第三十號(官報六月三日)

明治三十八年律令第三號臺灣土地登記規則ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第三十一號(官報六月三日)

明治三十八年律令第四號ニ依リ地方法院及其ノ出張所管内ニ登記所ヲ設置シ其ノ名稱位置及管轄區域左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

地方法院及出張所管内登記所名稱位置管轄區域

名稱	位置	管轄區域
臺北地方法院	淡水登記所	臺北廳管下滬尾支廳小基隆支廳管内一圓
臺北地方法院	基隆登記所	基隆廳管下一圓
臺北地方法院	深坑登記所	深坑廳管下一圓
臺北地方法院	桃園登記所	桃園廳管下一圓
臺北地方法院	苗栗登記所	苗栗廳管下大甲登記所所屬ヲ除キ一圓
臺北地方法院	大甲登記所	苗栗廳管下大甲支廳管内一圓
臺北地方法院	彰化登記所	彰化廳管下北斗登記所所屬ヲ除キ一圓
臺北地方法院	彰化登記所	彰化廳管下北斗支廳員林支廳二林支廳管内一圓
臺北地方法院	北斗登記所	彰化廳管下北斗支廳員林支廳二林支廳管内一圓

臺北地方法院	南	南投縣管下埔里社登記所屬ヲ除キ一圓
臺中出張所	埔里社	南投縣管下埔里社支廳管内一圓
臺南地方法院	大目降	臺南縣管下大目降支廳海裡支廳 噶吧哖支廳管内一圓
臺南地方法院	鹽水港	鹽水港廳管下麻荳支廳所屬ヲ除キ一圓
臺南地方法院	鹿港	鹽水港廳管下鹿港支廳 北門支廳管内一圓
臺南地方法院	蕃薯寮	蕃薯寮廳管下一圓
臺南地方法院	鳳山	鳳山廳管下阿公店登記所所屬ヲ除キ一圓
臺南地方法院	阿公店	鳳山廳管下阿公店支廳 楠仔坑支廳管内一圓
臺南地方法院	阿公店	阿緞廳管下東港登記所所屬ヲ除キ一圓
臺南地方法院	東港	阿緞廳管下東港支廳 枋寮支廳管内一圓
臺南地方法院	樓仔脚	嘉義廳管下樓仔脚支廳 東石港支廳管内一圓
臺南地方法院	斗六	斗六廳管下北港登記所所屬ヲ除キ一圓
臺南地方法院	北港	斗六廳管下北港支廳 下湖口支廳管内一圓

○臺灣總督府令第三十二號(官報六月三日)
 明治三十七年三月府令第二十八號中(但書)及臺南地方法院鳳山出張所ノ部ハ之ヲ削除ス
 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 臺灣總督男爵兒玉源太郎
 明治三十八年五月二十五日

〔参照〕

臺灣總督府令第二十八號(明治三十七年四月五日官報)抄録
 明治三十一年十一月府令第五十六號臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域左ノ通改正ス但シ臺南地方法院鳳山出張所ニ於テハ公証及登記事務ノミヲ取扱フ

○臺灣總督府令第三十三號(官報六月三日)

明治三十七年八月府令第六十號内地移出米検査規則中左ノ通改正ス

明治三十八年五月二十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條中基隆港ノ下ニ安平港及打狗港ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第六十號内地移出米検査規則(明治三十七年八月二十四日官報)抄録

第一條 臺灣產米證ヲ基隆港ヨリ内地ニ移出セントスルトキハ検査ヲ受クヘシ

○臺灣總督府令第三十四號(官報六月九日)

臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則左ノ通相定ム

明治三十八年五月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則

第一條 此ノ規則ニ於テ郵便切手類ト稱スルハ政府ニ於テ發行スル郵便切手 郵便葉書 郵便封

皮 郵便封紙及郵便切手貯金票紙ヲ謂フ

第二條 郵便切手類ノ賣捌ハ左記ノ場所ニ限ル

一 郵便及電信局
 二 郵便及電信支局
 三 郵便及電信出張所
 四 郵便及電信受取所
 五 郵便切手賣捌所

第三條 郵便切手類ハ定價ヲ以テ賣捌クヘシ

第四條 郵便切手類ノ汚損毀損シタルモノハ賣捌クコトヲ得ス

第五條 第二條第一號乃至第四號ノ場所ニ於ケル郵便切手類ノ賣捌時間ハ其ノ郵便物受付又ハ電報取扱ノ時限ニ依ル但シ時限ヲ定メス取扱ヲ爲スヘキ郵便物又ハ電報ニ對シテハ本項ノ時限ニ拘ラス之ニ要スル郵便切手類ヲ賣捌クヘシ

第二條第五號ノ場所ニ在テハ左ノ時限中郵便切手類ノ賣捌ヲ拒絕スルコトヲ得ス
 自十一月一日至十月三十一日 午前六時ヨリ午後十時マテ
 自三月一日至二月末日 午前七時ヨリ午後十時マテ

第六條 第二條各號ノ場所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ豫メ日ノ賣捌高ヲ見積リ常ニ相當ノ種類員數ヲ備置クヘシ

第七條 三等郵便及電信局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄又ハ最寄一二等郵便電信局ヨリ郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄郵便及電信局ヨリ賣下ヲ受クヘシ但シ本島内ニ船籍ヲ有スル船舶内ノ郵便切手賣捌所ニ在テハ其ノ航海起點地若ハ寄港地ノ郵便及電信局ヨリ賣下ヲ受クルコトヲ得

第八條 一、二等郵便電信局ニ於テ前條ノ賣下ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ一箇月毎ノ賣下回數ニ制限ヲ設クルコトヲ得

第九條 三等郵便及電信局、郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ノ定價ニ對シテ左ノ割引ヲ以テ賣下クヘシ
 一 三等郵便及電信局ニ對シテハ定價千分ノ八十
 二 郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ニ對シテハ定價千分ノ六十

第十條 郵便切手類ハ左記ノ場合ニ限り一、二等郵便電信局ニ於テ買戻又ハ交換スルコトアルヘシ但シ其ノ買戻ニ對シテハ前條ノ割引相當額ヲ控除スルモノトス
 一 三等郵便及電信局、郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ノ廢止又ハ三等郵便及電信局長並郵便及電信受取所取扱人ノ轉免若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セルモノ
 二 三等郵便及電信局、郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ノ賣下ヲ受ケタルモノニシテ天災事變其ノ他避クヘカラサル事故ニ起因シ汚損毀損シタルモノ

第十一條 第二條第五號ニ依リ郵便切手類ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ郵便切手賣捌免許申請書第一號ヲ所轄一、二等郵便電信局ニ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ本島ニ船籍ヲ有スル船舶内ニ於テ賣捌ヲ爲サントスル者ハ其ノ航海起點地所轄ノ一、二等郵便電信局ニ之ヲ差出スヘシ

第十二條 所轄一、二等郵便電信局ニ於テ郵便切手類ノ賣捌ヲ許可スルトキハ郵便切手賣捌免許證第二號ヲ交付スヘシ

第十三條 郵便切手賣捌人ハ自費ヲ以テ郵便切手賣捌所標札第三號ヲ調製シ戶外公衆ノ看易キ場所ニ掲出スヘシ但シ船舶内ニ在テハ其ノ賣捌ヲ表彰スヘキ適宜ノ標札ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ標札ハ所轄一、二等郵便電信局ニ於テ貸與ノ必要ヲ認メタルトキハ之ヲ貸與スルコトアルヘシ
 第十四條 三等郵便及電信局長、郵便及電信受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ第七條ニ依リ
 郵便切手類ノ賣下ヲ受ケントスルトキハ郵便切手類賣下請求書^{第四號}ヲ代金ト共ニ差出スヘシ
 第十五條 三等郵便及電信局所轄區内ノ郵便及電信受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ豫メ賣
 下局ノ承認ヲ得タルトキハ當該局集配人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ其ノ責任ニ關スル事項ヲ協定シ當該局長ヨリ臺灣總督ニ報告スヘシ
 第十六條 郵便及電信受取所取扱人並郵便切手賣捌人ハ其ノ印鑑ヲ所轄郵便及電信局ニ届出ヘシ
 改印又ハ紛失ノトキ亦同シ
 第十七條 郵便切手賣捌人改氏名ヲ爲シタルトキ又ハ郵便切手賣捌免許證ヲ毀損若ハ白失シタル
 トキハ所轄一、二等郵便電信局ニ其ノ書替又ハ再渡ヲ申請スヘシ
 第十八條 所轄一、二等郵便電信局ニ於テ前條ノ申請ヲ受タルトキハ之ヲ審査シ郵便切手賣捌免
 許證ノ書替交付又ハ其ノ再渡ヲ爲スヘシ
 第十九條 郵便切手賣捌人其ノ住所ヲ移轉シタルトキハ速ニ所轄一、二等郵便電信局ニ届出ヘシ
 第二十條 郵便切手賣捌人郵便切手賣捌所ヲ移轉セントスルトキ又ハ郵便切手類ノ賣捌ノ廢業セ
 ントスルトキハ三十日以前ニ所轄一、二等郵便電信局ニ之カ届出ヲ爲スヘシ
 第二十一條 郵便切手賣捌人自ラ廢業ノ届出ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ逃亡失踪若ハ死亡シタ
 ルトキハ其ノ家族又ハ親族ニ於テ速ニ所轄一、二等郵便電信局ニ廢業ノ届出ヲ爲スヘシ
 第二十二條 郵便集配區畫ノ變更、郵便函ノ廢止、郵便切手賣捌所位置ノ關係其ノ他郵便切手賣捌
 人ヲ不適當ト認ムル場合ニ於テハ所轄一、二等郵便電信局ニ於テ其ノ廢業ヲ命スルコトアルヘシ

第二十三條 所轄一、二等郵便電信局ニ於テ第二十條ノ移轉届出ヲ受タルトキハ之ヲ審査シ其ノ
 位置適當ト認ムルトキハ更ニ郵便切手賣捌免許證ヲ書替交付スヘシ
 第二十四條 郵便切手賣捌人廢業ノトキハ郵便切手賣捌免許證ヲ、書替申請ノトキハ舊郵便切手
 賣捌免許證ヲ所轄一、二等郵便電信局ニ返納スヘシ
 第二十五條 郵便及電信受取所取扱人並郵便切手賣捌人ハ其ノ近傍ニ設置シタル郵便函ヲ保護スヘシ
 前項郵便函ノ水火盜難ニ罹リタルトキ又ハ其ノ毀損若ハ郵便集配時刻表ノ剝脫汚損シタルトキ
 ハ速ニ所轄郵便及電信局ニ報告スヘシ
 第二十六條 郵便及電信受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ郵便函ノ位置ヲ變更スルノ必要ア
 リト認メタルトキハ所轄一、二等郵便電信局ニ申請スヘシ
 第二十七條 此ノ規則ニ依リ三等郵便及電信局區内ノ郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ヨリ所
 轄一、二等郵便電信局ヘ差出スヘキ文書又ハ返納スヘキ郵便切手賣捌免許證等ハ其ノ所轄二等
 郵便及電信局ヲ經由スヘシ
 所轄一、二等郵便電信局ヨリ送付スヘキ文書又ハ郵便切手賣捌免許證等ハ所轄三等郵便及電信
 局ヲ經由スヘシ
 第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ文書ハ無料郵便トシテ差出スコトヲ得
 第二十九條 第二條乃至第四條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 郵便切手賣捌人此ノ規則ニ違反シタルトキハ郵便切手賣捌免許ヲ取消スコトアルヘシ

附 則
 本令ハ明治三十八年六月二日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年十月府令第九十七號同第九十八號及明治三十三年十一月府令第百三號ハ之ヲ廢止ス
本令施行ノ際現ニ郵便切手類ノ賣捌ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受タル者ト看做ス
第一號樣式(用紙美澁紙)

郵便切手賣捌免許申請書

本籍
現住所
身分職業

氏名
氏名
名印

右ハ現住所又ハ何地若ハ所有船何丸(號)ニ於テ郵便切手類賣捌致度候間免許相成度此段申請候也
年月日

何郵便電信局

御中

第二號樣式

四寸八分

第 號
臺灣何縣何堡里何街庄社何番地
郵便切手賣捌免許證
何 誰
所轄(二三)
等局之印

明治 年 月 日
臺灣總督府

面 表

符 原

番 號	許 可 年 月 日	廢 止 年 月 日	住 所	氏 名	事 由
			臺灣何縣何堡里何街庄社何番地	何 誰	何 何

刻印

四寸八分

裏 面

一 此免許證ハ表面ニ記載シタル場所ニ於テ郵便切手類ノ賣捌ヲ記名者ニ免許セシ證トス
一 此免許證ハ賣買貸借又ハ讓與ヲ禁ス
一 水火盜難等ニテ此免許證ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキハ其事實ヲ證明シ更ニ免許證ノ下付ヲ請フヘシ但毀損ノモノハ返納スヘシ
一 賣捌人母住改姓名又ハ賣捌所移轉ノトキハ免許證ノ排換ヲ請フヘシ
一 賣捌人廢業ノトキハ此免許證ヲ返納スヘシ死亡又ハ逃亡スルカ或ハ廢業スルモ自ラ返納ヲ爲ス能ハサルトキハ其家族又ハ親族ヨリ返納スヘシ

三 寸

六 寸 五 分

記入例

- 一 免許證ノ番號ハ交付ノ順序ニ從ヒ記入スヘシ
- 二 事由欄内ニハ賣捌人改姓名移轉等ニ依リ再交付又ハ廢止等ノ事由及其年月日ヲ記入スヘシ
- 三 免許證再發ノ場合ニハ其郵便切手賣捌免許證ノ文字ノ右傍ニ其許可ノ年月日及許可ノ文字ヲ記入スヘシ

第三號樣式(木質適宜)

二尺五寸

五分七
□ 郵便切手賣捌所

第四號樣式(用紙適宜)

郵便切手類賣下請求書

- 一切手何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 一切手何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 小計價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 但割引歩合千分ノ八十又ハ六十 何枚
- 一通票書何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 往復票書何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 一封紙票書何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 小計價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 但割引歩合千分ノ八十又ハ六十 何枚
- 一角形封皮何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 長形封皮何錢 何枚

- 一切價格金何程 何枚
- 小計價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 但割引歩合千分ノ八十又ハ六十 何枚
- 大形價格表配封皮何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 小形價格表配封皮何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 小計價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 但割引歩合千分ノ八十又ハ六十 何枚
- 一切手封金票紙何錢 何枚
- 此價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 但割引歩合千分ノ八十又ハ六十 何枚
- 合計價格金何程 何枚
- 此買受代金何程 何枚
- 右請求候也

年月日

現住所
何郵便及電信局長又ハ何郵便及電信受取
所取扱人若ハ郵便切手賣捌人
氏 名印

何郵便及電信局

御中

〔備考〕
一郵便切手類ノ買下請求ヲ爲スニハ其買受代金ノ割引計算上厘位未滿ノ端數ヲ生セサルコトヲ要ス若買下請求ノ都合ニ依リ厘位以上ノ計數ヲ選ミ難キ事故アルトキハ各小計ノ買受代金ニ於テ厘位未滿ノ端數ヲ四捨五入スヘシ
一郵便切手類ノ買下請求ハ各種類毎ニ請求書ヲ差出スコトヲ得

〔參照〕

明治三十三年十月三十日臺灣總督府令第九十七號ハ郵便切手類買下割引ノ件(同第九十八號ハ郵便切手類買受ノ組合ニ關スル條項ハ姑ク施行セザル件)同三十四日同第九十三號ハ郵便切手買下所標札交付ノ件ナリ

○臺灣總督府令第三十五號(官報 六月九日)

明治三十七年一月府令第四號ハ明治三十八年五月三十一日限り之ヲ廢止ス

明治三十八年六月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十七年二月九日臺灣總督府令第四號ハ臺灣島内ニ於テ提出ス郵便爲替ニシテ同一ノ受取人(宛タルモノ及郵便爲替差出人爲替金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ當分ノ内一日金五百圓ヲ超過スルヲ得サル件ナリ

○臺灣總督府令第三十六號(官報 六月十七日)

明治三十六年一月府令第六號臺灣地方稅規則施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年八月三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十三條第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

期節ヲ限リ營業スルモノト認ムルモノニ付テハ第三項及第四項ノ規定ニ依ラス全額ヲ賦課ス

第二十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十三條第六項ニ該當スルモノニ付テハ廳長ハ前項ノ規定ニ依ラス適宜納期ヲ指定シ一時ニ之ヲ徵收ス

○臺灣總督府令第三十七號(官報 六月十七日)

臺灣總督府始政十年紀念繪葉書ヲ發行シ明治三十八年五月府令第三十四號郵便切手類買下賣捌規則ニ準シ之カ賣下賣捌ヲ爲サシム

前項葉書ノ種類發賣期日及發賣價格ハ別ニ之ヲ告示ス

明治三十八年六月六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第三十八號(官報 六月十七日)

製糖場取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年六月七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

製糖場取締規則

第一條 全部又ハ一部新式機械ヲ應用シ製糖場ヲ設立セントスル者ハ此ノ規則ニ依リ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケテ後工場ノ設計ヲ變更セントスル場合亦同シ

許可ヲ受ケシテ前項ノ製糖場ヲ設立シ又ハ其ノ變更ヲ爲シタル者アルトキハ臨時臺灣糖務局長ハ何時ニモ之カ取拂又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ許可ヲ受ケントスル者ハ第二號又ハ第二號書式ニ依リ願書及其ノ附屬書類ヲ調製シ所轄地方廳ニ差出スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ臨時臺灣糖務局長ニ送致スヘシ

第三條 臨時臺灣糖務局長ハ製糖場ノ設立又ハ變更ノ許可ヲ與ヘタル場合ニハ其ノ原料採取區域

明治三十八年六月 臺灣總督府令 第三十七號 第三十八號 製糖場取締規則

五七

之限定スベシ
前項ノ原料採取區域内ニハ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ糖廠ヲ設立スルコト
ヲ得ズ

第四條 前條第三項ニ依リ原料採取區域ヲ限定シ又ハ其ノ區域ヲ變更シタルトキハ臺灣總督府
報ニ之ヲ公示スベシ

附則

本令ニ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

既設ノ製糖場ニシテ第一條ニ該當スルモノハ本令施行後三箇月内ニ本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ク
ヘシ

(第一號書式)

製糖場設立許可願

- 一 製糖場ノ位置
- 一起業者ノ住所氏名
- 右ハ全部(又ハ何何)新式機械ニ依リ製糖場設立致度候ニ付御許可相成度別紙設計書及工場圖面並原料採取區域概況圖相添此段
相願候也
- 年 月 日

臨時臺灣糖務局長宛

住所

氏

名

設計書

一 製糖場ノ組織

二 製糖場附屬建物ノ構造及坪

- 三 製糖機械ノ種類、名稱、製糖能力及其價格
- 四 一期間ニ於ケル原料消費高及製糖高
- 五 製糖ノ種類
- 六 原料取得方法
- 七 原料採取區域
- 八 資本金額
- 九 收支豫算
- 右之通ニ候也
- 年 月 日

(第二號書式)

事業變更許可願

- 一 製糖場ノ位置
- 一 設立許可年月日
- 一 變更ノ程度
- 一 増減スヘキ機械ノ種類、名稱、能力
- 一 増減スヘキ原料採取區域並其概況圖
- 一 増減ノ爲要スヘキ金額
- 右之通變更致度ニ付許可相成度此段相願候也
- 年 月 日

臨時臺灣糖務局長宛

住所

氏

名

○臺灣總督府令第三十九號(官報六月十七日)
臨時臺灣戶口調査規則左ノ通相定ム

明治三十八年六月八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臨時臺灣戶口調査規則

第一條 明治三十八年十月一日臨時戶口調査ヲ施行ス但シ同日内ニ完了シ難キトキハ同月三日迄ニ施行スヘシ

天災事變其ノ他避クヘカラサル事由ニ因リ前項ノ期間ニ施行スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後直ニ之ヲ施行スヘシ

第二條 臨時戶口調査ハ明治三十八年十月一日午前零時ニ於ケル現在者ニ就キ左ノ事項ヲ調査スルモノトス但シ蕃地ニ在ル蕃人ハ之ヲ調査セス

- 一 氏名
- 二 所帯主トノ續柄又ハ所帯主若ハ所帯トノ關係
- 三 種族
- 四 男女ノ別
- 五 出生ノ年月日
- 六 緣事上ノ身分
- 七 本業名
- 八 本業ノ地位
- 九 副業名
- 十 副業ノ地位
- 十一 常用語
- 十二 常用以外ノ語

十三 讀ミ書キノ程度

十四 不具ノ種類(聾啞盲白痴及瘋癲ニ限ル)

十五 不具ノ原因

十六 阿片煙吸食者

十七 纏足者

十八 出生地(内地人ニ限ル)

十九 原籍(内地人ニ限ル)

二十 國籍(外國人ニ限ル)

二十一 渡臺ノ年(内地人ニ限ル)

二十二 常住地(一時現在者ニ限ル)

前項ノ現在者ニアラサルモ常住者ト認ムヘキ者ニ付テハ氏名及男女ノ別ヲ調査シ其ノ所帯主ニ付テハ仍職業名及其ノ地位ヲ調査ス

所帯主ニ限リ現在者ナルト現在者ニアラサル常住者ナルトヲ問ハス住家ノ有様ヲ調査ス

第三條 保正、甲長、街庄社長及其ノ書記ハ臨時戶口調査ニ際シ當該職員ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ヲ補助スヘシ

第四條 廳長ハ臨時戶口調査ニ際シ祭典其ノ他衆庶ノ移動ヲ來スヘキ行爲ニシテ調査ヲ阻害スルノ虞アリト認メタルトキハ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 臨時戶口調査ニ際シ調査ヲ忌避シ又ハ其ノ進行ヲ阻害スルノ行爲アリタル者

二 臨時戶口調査ニ關シテ當該職員ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者
 三 人ヲ教唆シテ第一號又ハ第二號ノ行爲ヲ爲サシメタル者
 第六條 第四條ノ命令ニ從ハサル者又ハ流言其ノ他ノ方法ヲ以テ臨時戶口調査ヲ妨ケムトスル者
 ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○臺灣總督府令第四十號(官報 六月十七日)
 郵便貯金法ノ施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外逋信省省令及告示ニ依ル

明治三十八年六月九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第四十一號(官報 六月二十七日)

公衆通信ノ用ニ供スル電信線、電話線ヲ建設シタル土地ノ所有者又ハ其ノ他ノ權利者ニシテ該電
 線ノ移轉ヲ必要トスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄建築事務兼掌郵便電信局ニ出願スルコトヲ得
 當該郵便電信局ニ於テ前項ノ願出ヲ許可シタルトキハ其ノ移轉費用ハ出願者ノ負擔トス

明治三十八年六月二十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第四十二號(官報 七月十日)

明治三十八年律令第四號ニ依リ地方法院及其ノ出張所管内登記所ニ於テハ法院書記ヲシテ土地
 建物、船舶、商業ノ登記及公證事務ヲ取扱ハシム
 前項ニ依リ書記カ公證事務ヲ取扱フヘキ場合ニ於テハ「公證官吏臺灣總督府法院書記」ト刻シタル
 方六分ノ職印ヲ用ウヘシ

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第四十二號(官報 七月十日)

臺灣土地登記規則施行規則左ノ通相定ム

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣土地登記規則施行規則

第一條 臺灣土地登記規則ニ依ル土地ノ登記ハ此ノ規則ニ於テ特ニ規定スルモノノ外明治三十二
 年五月司法省令第十一號不動産登記法施行細則ニ依ル但シ同則中司法大臣トアルハ臺灣總督、地
 方裁判所トアルハ覆審法院、區裁判所トアルハ地方法院及其ノ出張所、區裁判所出張所トアルハ
 地方法院及其ノ出張所管内登記所市區町村長トアルハ廳長又ハ支廳長トス
 土地臺帳謄本ハ之ヲ設備セス

第二條 土地登記簿ハ別記第一號雛形ニ依リ覆審法院ニ於テ調製シ登記官廳ノ請求ニ因リ之ヲ交
 付スヘシ

第三條 印鑑ハ別記第二號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條 官廳又ハ公共ノ團體ノ公賣處分、土地收用又ハ遺言ニ因ル未登記ノ土地業主權移轉ノ登

記ノ申請又ハ囑託アリタルトキハ不動産登記法第二百九條ノ規定ヲ準用ス未登記ノ土地業主
權移轉ノ判決アリタルトキ亦同シ

第五條 公業ニ屬スル土地ノ登記ハ其ノ管理人ヨリ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ登記官吏ハ業主名ノ外其ノ管理人ノ住所氏名ヲ土地登記簿ニ記載スヘシ

第六條 公業管理人ノ變更アリタルトキハ新管理人ヨリ變更ノ登記ヲ申請スヘシ
登記官廳ハ公業管理人ノ變更ノ登記ヲ爲シタルトキハ滯滞ナク其ノ旨ヲ土地臺帳所管廳ニ通知
スヘシ

第七條 舊價ニ依リ厝地ト厝屋ト分ツヘカラサルトキハ建物敷地ノ登記中ニ建物ヲ包含セシメテ

登記ス此ノ場合ニ於テハ土地登記簿中表示欄建物敷地ノ次ニ建物ヲ表示スヘシ

第八條 前條厝屋ノ登記ニ關シテハ不動産登記法中建物ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 厝屋ト厝地トヲ分離シテ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲ストキハ厝屋ノ登記ノ抹消ヲ申
請スヘシ

第十條 第七條ノ厝ニ關スル權利ハ之ヲ土地ニ關スル權利ト看做ス

第十一條 墾耕權ハ耕作、牧畜其ノ他農業ヲ目的ト爲ス土地ノ賃借トス

第十二條 地方費區、罹災救助基金、公學校、學租財團、仁濟院、慈善院及普濟院カ土地ニ關スル權利
ニ付爲スヘキ登記ニ關シテハ不動産登記法中公署ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 臺灣總督府ノ所管ニ係ル土地ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ臺灣總督ノ告示ヲ以テ指
定シタル官吏ハ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ヲ提出スルヲ要セス各省ノ所管ニ係ル土
地ノ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テ明治二十五年勅令第五號ニ基キ各省大臣ノ指定シタル官吏亦

同シ

第十四條 臺灣土地登記規則施行後新ニ土地臺帳ニ登錄セラレタル土地ニ關シ其ノ登錄前設定シ
タル典權、胎權及墾耕權ハ土地臺帳登錄ノ日ヨリ六箇月内ニ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ
對抗スルコトヲ得ス

(別記)

第一號雜形

土地登記簿		地方法院(出張所)		紙數表紙ヲ除キ 枚	
登記 番號	表示 欄	登記 番號	表示 欄	登記 番號	表示 欄
第	部	第	部	第	部
(示表地土) 部 願 表		(示表地土) 部 願 表		(示表地土) 部 願 表	
土地登記簿					

覆審法院長

甲 (權主業) 區		乙 (權及典 胎權) 區		丙 (權耕業) 區	
番順位	事項欄	番順位	事項欄	番順位	事項欄

第二號雛形(用紙厚紙堅四寸横一寸)

住所
氏名
生年月日

○臺灣總督府令第四十四號(官報 七月十日)
 (注意) 法人ノ代表者又ハ公業ノ管理人ナルトキハ氏名ノ肩ニ其ノ所在地、名稱並其ノ資格ヲ記載スヘシ
 明治三十二年七月府令第八十三號中建物登記簿ノ上ニ土地登記簿ヲ加フ

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十二年八月八日 臺灣總督府令第八十三號ハ建物及商業登記簿ノ謄本抄本等請求手數料ノ件ナリ

○臺灣總督府令第四十五號(官報 七月十日)

臺灣土地登記規則施行規則左ノ通相定ム

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣土地登記規則施行規則

第一條 印紙ヲ以テ納ムル土地登記稅ハ登記申請書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
 第二條 現金ヲ以テ納ムル土地登記稅ハ地方廳ニ納付シ其ノ稅金領收證ヲ登記申請書ニ添附スヘシ

土地登記稅納付書ハ別記様式ニ依ルヘシ

第三條 官廳ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登記税ヲ納ムヘキ者ニ相
當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出セシメ登記囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ領收證ヲ添附シ
テ登記官廳ニ送致スヘシ

第四條 登記官廳ハ印紙ヲ貼用シタル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ印紙ヲ黒肉ヲ以テ消印スヘシ
又免稅ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書類ニ朱肉ヲ以テ免稅印ヲ捺捺スヘシ

第五條 登記官廳ハ第二條第一項ニ依リ稅金領收證ヲ添附シタル書類ヲ受理シタルトキハ其ノ書
類ニ現金納付濟ノ印ヲ捺捺スヘシ

第六條 土地登記規則第六條第二項ノ評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上三圓以
下ノ範圍内ニ於テ登記官廳ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

(別記様式)

土地登記稅納付書

登記區分	課稅標準	稅額
何々	何萬圓何百圓	何圓

右納付條也
年 月 日

廳長 宛

住所

氏名印

備考
一 登記區分欄ニハ臺灣土地登記稅規則第一條各號ノ區分ニ依リ記入スヘシ
二 課稅標準及稅額ハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウヘシ

○臺灣總督府令第四十六號(官報 七月十日)
建物及船舶ノ所有者ハ登記照合ノ用ニ供スル爲建物ニ付テハ其ノ所在地船舶ニ付テハ其ノ定繫場
ヲ管轄スル地方法院其ノ出張所若ハ登記所ニ印鑑ヲ届出ヘシ改印シタルトキ亦同シ印鑑ハ郵便ヲ
以テ差出スモ妨ナシ
印鑑ハ左ノ離形ニ依ルヘシ
印鑑離形(用紙原紙四寸横一寸)

住所	氏名
印鑑	名
氏	生年月日

(注意) 法人ノ代表者又ハ公業ノ管理人ナルトキハ氏名ノ肩ニ其ノ所在地名稱並其ノ資格ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十一年八月府令第七十號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

[參照]

明治三十一年八月二十日臺灣總督府令第七十號ハ本令ト同伴ナリ
○臺灣總督府令第四十七號(官報 七月十日)

明治三十七年十二月府令第八十八號臺灣地租規則施行規則中左ノ通改正ス
臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年六月二十四日

臺灣總督府令 第四十六號 第四十七號

第四條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
 第四條ノ二 左ニ掲クル事項ハ登記官廳ノ通知アルニアラサレハ土地臺帳ニ登録セス但シ第二號ノ事項ニシテ未登記ノ土地ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
 一 業主權ノ移轉
 二 典權ノ設定移轉若ハ消滅
 三 公業管理人ノ變更
 第四條ノ三 土地臺帳ニ登録シタル事項ニシテ不動産登記法第十一條第二項ニ該當スルモノハ第十一號書式ニ依リ土地臺帳所管廳ヨリ登記官廳ニ通知スヘシ但シ未登記ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第五條ニ左ノ二項ヲ加フ
 管理人ノ選任又ハ解任ハ三十日以内ニ第九號書式ニ依リ其ノ土地ノ管理人ヨリ地方廳ニ申告スヘシ但シ公業ニ屬スル既登記ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ申告ヲ爲ストキハ其ノ事實ヲ證スヘキ證據書類ヲ提出スヘシ但シ證據書類ハ當該官吏檢閱ノ上之ヲ還付ス
 第六條 土地臺帳及地圖ノ閱覽又ハ謄本ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ地方廳ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ左ノ手数料ヲ納付スヘシ但シ國庫及地方費區ニ屬スル土地ハ手数料ノ納付ヲ要セス
 一 土地臺帳又ハ地圖ノ閱覽 一回ニ付金五錢
 二 土地臺帳ノ謄本 一地番ニ付金五錢

三 地圖ノ謄本 一地番ニ付金二十錢
 謄本ハ業主、典主若ハ管理人ニ非サレハ之ヲ下付セス但シ特別ノ規定ニ依リ土地ノ證明ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラス
 第二十三條削除
 第二十四條 業主、典主若ハ管理人ニシテ其ノ住所氏名ヲ變更シタルトキハ三十日以内ニ第九號書式ニ準シ地方廳ニ申告スヘシ
 第二十五條第一項中第二十一條及第二十二條トアルヲ及第二十一條トシ第二項ヲ削除ス
 第二十九條 第五條第二項第八條、第十六條、第二十二條、第二十四條及第二十六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第一號書式備考第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 三 業主、典主、管理人以外ノ者ヨリ出願スルトキハ土地ノ證明ヲ要スル事由ヲ記載スヘシ
 附 則
 本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (第九號書式)
 土地管理人選任(又ハ何何)申告書
 左記ノ通申告候也
 明治何年何月何日
 業主 何 某
 何處何庄何番戶
 右管理人 何 某印

右何堡何庄何番戶何業ヨリ買受(何堡何庄何番戶何業ハ買入候ニ付及御届候也)

何堡何庄何番戶

買受(買入)人 何

某印

明治 年 月 日

廳長 宛

○臺灣總督府令第五十號(官報 七月十日)

收入印紙賣下賣捌規則左ノ通相定ム

明治三十八年六月三十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

收入印紙賣下賣捌規則

- 第一條 收入印紙ハ此ノ規則ニ依リ賣下、賣捌ヲ爲ス
 - 第二條 收入印紙ハ賣捌人ヲシテ一定ノ場所ニ於テ定價ヲ以テ賣捌ヲ爲サシム但シ地方ノ情況ニ因リ官廳ニ於テ直接賣下ヲ爲スコトアルヘシ
 - 第三條 賣捌所ノ敷及位置ハ廳長之ヲ定ム
 - 第四條 收入印紙ノ賣捌ヲ爲サムトスル者ハ指定ノ位置ニ賣捌所ヲ定メ地方廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
 - 第五條 賣捌人ハ左ノ資格ヲ有スル者ニアラサレハ之ヲ許可セス
 - 一 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ法律ニ依リ恩給又ハ退隱料ヲ受クル者
 - 二 法律ニ依リ扶助料ヲ受クル者
 - 三 明治二十九年勅令第百八十號ニ依リ六等以上ノ死傷手當ヲ受ケタル者ニシテ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者又ハ其ノ遺族
- 前項ニ該當スル者ナキトキハ相當ノ資産ヲ有シ適當ト認メタル者ニ三箇年以内ノ期限ヲ定メ之

ヲ許可ス

第六條 前條ニ該當スル者ト雖禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、破産若ハ家資分産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者並豫戒命令ヲ受ケタル者ニハ之ヲ許可セス

第七條 賣捌人左ノ事項ノ一ニ該當スル場合ハ許可ヲ取消スヘシ

一 第五條第一項第一號及第二號ノ資格ヲ有スル者ニシテ其ノ權利ノ消滅又ハ停止アリタルトキ

二 賣捌所ニ居住セスシテ常ニ代理人ヲシテ賣捌ヲ爲サシメタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ需用者ノ需用ニ應スル收入印紙ノ準備ヲ缺キタルトキ

四 賣下賣捌ニ關スル規定ニ違背シ若ハ賣捌人トシテ不適當ノ行爲ヲ爲シタルトキ

第八條 收入印紙ヲ賣捌人ニ賣下クルトキハ其ノ定價ニ對シ百分ノ五ノ割引ヲ爲スヘシ

第九條 收入印紙ハ其ノ代金納付ノ上下渡スヘシ

第十條 賣捌人ハ收入印紙ノ損傷若ハ汚染シタルトキ又ハ不用ニ歸シタルトキハ其ノ定價ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ地方廳ニ請求スルコトヲ得

第十一條 賣捌人死シ又ハ官ニ於テ賣捌所ヲ廢止シタルトキハ地方廳ニ賣下代價ヲ以テ殘存印紙ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣捌人ハ收入印紙ヲ定價以外又ハ許可ヲ受ケタル場所以外ニ於テ賣捌クコトヲ得

第十三條 賣捌人廢業セムトスルトキハ其ノ旨地方廳ニ届出ヘシ

第十四條 賣捌人ハ別記雛形ノ標札ヲ調製シ地方廳ノ檢印ヲ受ケ戸外ニ掲出スヘシ

第十五條 賣捌人廢業シ又ハ許可ヲ取消サレタルトキハ檢印ノ削除ヲ請フヘシ

第十六條 賣捌人ハ受拂簿ヲ調製シ收入印紙受拂ノ員數及年月日ヲ記載スヘシ

第十九條 公學校訓導ノ試験科目及其ノ程度ハ臺灣總督府師範學校ノ生徒ニ課スル學科程度ニ準ス
第二十二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書第一號書式ニ左ノ書類ヲ添ヘ臺灣總督ニ出願スヘシ

○臺灣總督府令第五十四號(官報七月十七日)

明治三十七年四月府令第四十四號臺灣小學校及臺灣公學校職員任用規則中左ノ通改正ス

明治三十八年七月七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第四條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十七年四月府令第四十三號第十七條第二項及第十八條第二項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケ臺灣公學校教諭ノ免許狀ヲ有スル者ハ蕃人ノ子弟ヲ就學セシムヘキ公學校ヲ除クノ外他ノ公學校ニ勤務セシムルコトヲ得ス

○臺灣總督府令第五十五號(官報七月二十六日)

各廳長ニ於テ即決言渡シタル刑ノ執行ハ各廳間互ニ囑託ヲ爲スコトヲ得

前項囑託ニ因リ生シタル費用ハ受託廳ノ支辨トス

明治三十八年七月十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十六號(官報七月三十一日)

賣買、交換其ノ他ノ方法ニ依リ蕃人ニ物品ヲ供給セムトスル者ハ其ノ品目、數量ヲ定メ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケシテ物品ヲ供給シ又ハ許可ヲ受ケタル品目、數量以外ノ物品ヲ供給シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知テ其ノ行爲ヲ幫助シタル者亦同シ

本令施行ノ地域及細則ハ廳長之ヲ定ム

明治三十八年七月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十七號（官報八月十五日）
臺灣總督府監獄ハ其ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

明治三十八年八月五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十八號（官報八月十五日）
明治三十六年九月府令第六十二號基隆港内取締規則第四條第二項中E浮標ノ下G浮標ノ三字ヲ削除ス

明治三十八年八月五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十九號（官報八月十七日）
明治三十六年九月府令第六十五號粗製樟腦樟腦油專賣法施行細則左ノ通改正ス

明治三十八年八月九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則

第一條 粗製樟腦、樟腦油製造ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ設計書及製腦場所ノ圖面ヲ添附シ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ差出スヘシ

第二條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ豫定ノ腦灶全數ノ製腦ニ著手スルニ至ルマテ毎月末日ニ於ケル事業進行ノ現狀ヲ翌月五日限り製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ該届書ニハ腦灶ノ位置、箇數ヲ明記シタル圖面及其ノ腦灶別擔當腦長、股首ノ氏名並各腦灶ニ配置シタル腦丁ノ員數表ヲ添付スルヲ要ス

第三條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ毎年二月限り其ノ翌年度ノ生産見込量目ヲ別記第三號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出認可ヲ受クヘシ

明治三十八年八月 臺灣總督府令 第五十七號 第五十八號 第五十九號 粗製樟腦、樟腦油專賣法施行細則 八一

第四條 粗製樟腦樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記シタル願書ヲ製腦場所ノ所轄廳ニ差出スヘシ

- 一 製腦著手期限ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 腦灶ノ位置ヲ變更セムトスルトキ
 - 三 腦灶ヲ増加セムトスルトキ
 - 四 腦灶ヲ減少セムトスルトキ
 - 五 腦灶ノ一部若ハ全部ノ休養十日以上ニ互リ尙之ヲ繼續セムトスルトキ
 - 六 製腦場所ノ接續セル地域ニ於テ更ニ製腦場所ヲ擴張セムトスルトキ
 - 七 生産見込量目ヲ變更セムトスルトキ
- 前項第二號ノ場合ハ其ノ腦灶ノ現位置及移轉セムトスル場所ヲ明記シタル圖面並別記第二號書式ノ第三項第四項ニ準シタル設計書ヲ添附シ第三號ノ場合ハ其ノ増加セムトスル地點ヲ明記シタル圖面並別記第二號書式ノ第二項第三項第四項第五項第六項ニ準シタル設計書ヲ添附シ第四號及第六號ノ場合ハ其ノ腦灶ノ位置又ハ擴張セムトスル場所ヲ明記シタル圖面ヲ添附シ第五號ノ場合ハ其ノ期間ヲ定メ且休養腦灶ノ位置ヲ明記シタル圖面ヲ添附スルヲ要ス
- 地方廳ニ於テ第一項ノ願書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之方處分ヲ爲シ其ノ願未ヲ臺灣總督府專賣局長ニ報告スヘシ但シ第一項第七號ノ願書又ハ生産見込量目ニ異動ヲ生スヘシト認メタル願書ハ臺灣總督府專賣局長ノ承認ヲ經テ處分スヘシ
- 第五條 粗製樟腦樟腦油製造者前條第一項各號ノ一以上ニ該當シ又ハ第三條ノ認可ヲ受ケムトスル場合ニ於テ同時ニ前條第一項各號ノ一若ハ二以上ニ該當スルトキハ前條ノ規定ニ依リ同時

ニ出願スヘシ

第六條 第一條ノ出願又ハ生産見込量目ヲ増加セムトスルニ因リ製腦ニ使用スル樟樹其ノ他ノ木竹ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一條ノ願書又ハ生産見込量目變更願書ト共ニ明治二十九年十月府令第四十四號臺灣官有森林原野產物賣渡規則第四條ノ特賣願書ヲ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ差出スヘシ

第七條 相續ニ因リ粗製樟腦樟腦油ノ製造業ヲ繼承シタル者ハ其ノ日ヨリ五日以内ニ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

相續ニ因ルノ外粗製樟腦樟腦油ノ製造業ヲ繼承セムトスルトキハ製造者及繼承者連署シ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

第八條 粗製樟腦樟腦油製造者ハ毎月ノ製腦成績ヲ翌月五日限り別記第四號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

第九條 粗製樟腦樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ事實ノ發生シタル日ヨリ五日以内ニ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

- 一 住所又ハ氏名若ハ名稱ヲ變更シタルトキ
- 二 代理人ヲシテ製造運送又ハ納付ニ關スル事項ヲ處理セシムルトキ及其ノ代理人ヲ解除シタルトキ
- 三 腦長、股首、腦丁並事務員ヲ備入レタルトキ及之ヲ解僱シタルトキ

前項第三號ノ場合ハ其ノ住所、氏名、年齢及男女別ヲ明記スルヲ要ス

第十條 粗製樟腦樟腦油製造者ハ腦長、股首、腦丁、運搬夫其ノ他ノ備入ニ左式ノ木製鑑札ヲ携帯セ

シムヘシ

表 (三寸)		裏	
原籍	住所	粗製樟腦樟腦油製造人	氏名
丁(運搬夫)	氏名	氏名	名印
年	年	明治何年何月何日	
齡	齡		
(分五寸二)			

第十一條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ其ノ腦館ニ別記第五號書式ノ帳簿ヲ備ヘテ毎日製造品ノ受拂ニ關スル事項ヲ正確ニ記載シ尙別ニ金錢出納簿ヲ備ヘテ製腦業ニ關スル金錢ノ出納ヲ其ノ都度正確ニ記載スヘシ

二箇以上ノ腦館ヲ有スル者ハ前項ノ帳簿ヲ各腦館ニ備ヘテ記載スルヲ要ス

第十二條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ毎月五日、十日、十五日、二十日、二十五日及末日ニ於テ各其ノ期間内ニ於ケル腦館別製造品ノ受拂ヲ別記第六號書式ニ依リ臺灣總督府專賣局及腦館所在地ノ所轄廳ニ届出ヘシ

第十三條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ其ノ製造品ヲ製造後四十日以内ニ別記第七號書式ノ書面ヲ添ヘテ臺灣總督府專賣局ニ納付スヘシ但シ樟腦油ニシテ基隆港ニ廻送シタルモノハ臺灣總督府專賣局基隆出張所ニ納付スヘシ

臺灣總督府專賣局ハ事務ノ都合ニ因リ前項ノ期限内特ニ納付期日ヲ指定スルコトアルヘシ製造品ニ異狀ヲ生シ又ハ運搬通路ニ故障ヲ生シタルニ因リ第一項ノ期間及第二項ニ依リ指定シタル期日ニ納付ノ爲届出シ能ハサル場合ハ即日其ノ事由ヲ詳記シ腦館所在地ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ届出ヘシ

第十四條 粗製樟腦、樟腦油製造者其ノ製造品ヲ納付ノ爲届出スルトキハ別記第八號書式ノ送狀ヲ現品ニ添附シ又其ノ届出ヲ終リタルトキハ即時別記第九號書式ニ依リ臺灣總督府專賣局及其ノ届出ヲ爲シタル腦館所在地ノ所轄廳ニ届出ヘシ

前項ノ製造品ニハ各容器ニ製造者ノ氏名若ハ名稱ヲ記載スヘシ

第十五條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ製造品運搬中ニ異狀アリタルトキハ即時其ノ願末ヲ臺灣總督府專賣局及之ヲ届出シタル腦館所在地ノ所轄廳、事件ノ發生シタル土地ノ所轄廳ニ届出ヘシ

第十六條 粗製樟腦、樟腦油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ別記第十號書式ニ依リ製腦場所ノ所轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府專賣局ニ願出ヘシ

第十七條 粗製樟腦、樟腦油專賣法第九條ニ依リ粗製樟腦、樟腦油ノ製造ヲ制限スルノ必要アリト認めタルトキハ臺灣總督府專賣局ハ製造許可量目ヲ更訂シ尙必要ノ場合ニ於テハ腦灶數ヲ更訂シテ製造者ニ通知スヘシ

第十八條 粗製樟腦、樟腦油製造者ハ左ノ場合ニ於テハ所轄廳ノ指定シタル期限内ニ其ノ腦灶ヲ撤去スヘシ但シ指定期限内ニ之ヲ撤去スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ所轄廳ニ願出ヘシ

- 一 製造廢止ノトキ
 - 二 製造許可ヲ取消サレタルトキ
 - 三 腦灶更訂ノ通知ニ依リ減灶ヲ要スルトキ
- 地方廳ニ於テ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之カ處分ヲ爲シ又腦灶撤去ヲ終了シタルトキハ之ヲ臺灣總督府專賣局長ニ報告スヘシ

第十九條 粗製樟腦、樟腦油專賣法第十二條ニ依リ検査又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲ス官吏ニシテ警察官吏以外ノ者ハ左記ノ章票ヲ携帶スヘシ

(四寸)

樟腦樟腦油検査官吏之章
臺灣總督府專賣局(廳)
(分五寸二)

第二十條 地方廳ニ於テ第四條及第十八條規定以外ノ願出ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル意見ヲ附シ又第十二條 第十四條及第十五條規定以外ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル審査ノ結果ヲ記シテ臺灣總督府專賣局長ニ送付スヘシ

第二十一條 第四條第一項ニ違背シテ腦灶ノ位置ヲ變更シ若ハ十日以上ニ亙リ腦灶ノ一部若ハ全部ノ休養ヲ繼續シタル者 第九條第一項第三號ノ届出ヲ怠リタル者又ハ第十條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條第八條 第九條第一項第一號及第二號 第十二條 第十三條第三項 第十五條ノ届出ヲ怠リ又ハ第十四條 第十八條第一項ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治三十八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
粗製樟腦、樟腦油製造ノ許可ヲ受ケ 本令施行ノ際現ニ製腦ニ従事スル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

(別記)

第一號書式

(備考) 圖面ニハ區域内ノ各字及地勢區域隣接地ノ概要ヲ描クヲ要ス

粗製樟腦樟腦油製造許可願

何處何處(里)何山林(露地)別紙圖面ノ場所ニ於テ製腦致度御許可ノ上ハ粗製樟腦樟腦油專賣法同施行細則其他製腦ニ關スル諸規則及命令等遵守可致別紙設計書及圖面添附此段奉願候也
年 月 日

原籍 住所

氏 名 印

臺灣總督府專賣局長宛

第二號書式

製腦設計書

一 生産見込表目

本年度

月次	製腦地名		生産見込	樟腦油	高	摘要
	何	何				
何	何	何	計			
何	何	何	計			
何	何	何	計			
何	何	何	計			

二 腦灶數 此配置 何個 何灶

三 腦灶種類 何山(何溪)(何坑) 何灶

何山(何溪)(何坑)何灶ノ内何灶(全部)ハ何式ニシテ(一)鍋ノ徑何尺何寸(二)甌ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸(三)冷却器何個組合セ

何山(何溪)(何坑)何灶ノ内何灶(全部)ハ何式ニシテ(一)鍋ノ徑何尺何寸(二)甌ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸(三)冷却器何個組合セ何灶何式ニシテ(一)鍋ノ徑何尺何寸(二)甌ノ高サ何尺何寸口徑何尺何寸底徑何尺何寸(三)冷却器何個組合セ

四 製腦者手限 何山(何溪)(何坑)ノ何灶ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以内ニ何灶ハ其後何日以内ニ何灶ハ其後何日以内ニ孰レモ築成開敷ス

何山(何溪)(何坑)ノ内何灶ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以内ニ何人(内地人本島人ノ内)其ノ後何日以内ニ何人ヲ備入ル

五 備人數 内地人 何人 内地人 何人 本島人 何人 本島人 何人

六 常備運搬夫 内地人 何人 内地人 何人 本島人 何人 本島人 何人

許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以内ニ何人(内地人本島人ノ内)其ノ後何日以内ニ何人ヲ備入ル

右之通ニ依也

年 月 日

住原 所籍 氏名印

臺灣總督府專賣局長宛

第三號書式

(備考) 生産ニ對スル計算ノ基礎ヲ摘要關ニ詳説スルヲ要ス

明治何年度組製樟腦樟腦油生産見込量目認可願

月次	製腦地名		生産見込	樟腦油高	摘要
	何	何			
何	何	何	何	何	何
計	何	何	何	何	何

右生産見込量目御認可被成下度此段奉願候也

年 月 日

製腦業者 氏名印

第四號書式

(備考) 焚熬ノ灶數 日數關ニハ當月ニ於テ槽揚ヲ爲シタル腦灶ノ數及其ノ焚熬日數ヲ記載スルヲ要ス

焚熬中ノ灶數 日數關ニハ當月ニ於テ焚熬セシモ槽揚ヲ爲サザリシ腦灶ノ數及其ノ焚熬日數ヲ記載スルヲ要ス

休廢ノ日數關ニハ當月中休廢灶ノ延日數ヲ記載スルヲ要ス

未焚灶數關ニハ焚灶完成セルモ製腦未著手ニ關スル灶數ヲ記載スルヲ要ス

焚熬セルモ其ノ月内ニ槽揚ヲ爲サザリシモノ製灶完成セルモ其ノ月内ニ製腦ニ著手セザリシモノ及休廢灶ニ對シテ其ノ理由ヲ摘要關又ハ別紙ヲ以テ詳説スルヲ要ス

- 五 甲號帳簿ノ「雜入」欄ニハ樟腦ハ腦油ヨリ變生シタルモノ等ヲ樟腦油ハ樟腦貯藏中油水分脫離ノ爲ニ生シタルモノヲ執レモ搬出ノ都度及毎月末日ニ於テ計上配帳シ且摘要欄ニハ「何日」滴出又ハ變生ト記入スルヲ要ス
- 六 甲號帳簿ニ搬出高ヲ配帳シタルトキハ其ノ搬出先(專賣局へ向ケ搬出又ハ何腦館へ向ケ搬出ト云フカ如シ)ヲ摘要欄ニ記帳スルヲ要ス
- 七 甲號帳簿ノ「貯藏減量」ハ搬出ノ都度及毎月末日ニ於テ計上配帳スルヲ要ス
- 八 毎月合計ハ未嘗テ各月累計ハ其ノ次行ニ照書スルヲ要ス
- 九 腦館ニ於テ他ノ腦部ヨリ受入シタルトキノ帳簿配帳方ハ其ノ受高欄ノ受入高、秤量増及雜入ニ於テハ之ヲ拂出シタル腦館ノ配帳高ト同一斤量ヲ記入シ貯藏減ニ於テハ拂出腦館配帳ノ貯藏減ト腦館間ノ運送減ト受入後搬出迄ノ貯藏減トヲ計上記入スルヲ要ス
- 十 甲號帳簿ノ合計「前日殘高」欄ニハ前月末殘高ヲ記入スルヲ要ス

第六號書式

(備考) 本屆書ハ郵便端書ヲ使用スルモ差支ナシ

明治何年何月 自何日 至何日 何何腦館受排屆

現在高	高		高		受		區	別	樟	腦	油
	合	計	何何へ搬出高	貯藏減	雜	入					

右及御届候也
年月日

製腦業者 氏 名 印

第七號書式

臺灣總督府專賣局(何廳)宛
粗製樟腦樟腦油納付書

一 粗製樟腦 何斤 此補償金何程
一 樟腦油 何斤 此補償金何程

種	別	量	目	單	價	小	金
樟	腦	油					

右及納付候也
年月日

製腦業者 氏 名 印

第八號書式

臺灣總督府專賣局長(基隆出張所主任)宛
樟腦樟腦油搬出送狀

(備考) 基隆港揚樟腦油ニ對シテハ專賣局長(基隆出張所主任)ニテ發行スルヲ要ス

右納付ノ爲本日提出候也

明治 年 月 日

臺灣總督府專賣局(基隆出張所)御中

製腦業者 氏 名印

第九號書式

(備考) 本屆書ハ郵便備書ヲ使用スルモ差支ナシ

第 號 樟腦樟腦油搬出届

種別	量	目	箇數	運路	場	所出	貯藏期間	摘	要
樟腦							自何月何日 至何月何日		
樟腦油							自何月何日 至何月何日		

右納付ノ爲本日提出候也

明治 年 月 日

臺灣總督府專賣局(何應)御中

製腦業者 氏 名印

第十號書式

組製樟腦樟腦油製造廢止願

何處何處(里)何庄何山林(番地)ニ於テ製腦ノ條明治何年何月何日附指令第何號ヲ以テ御許可相成(製腦場所擴張ノ許可ヲ受ケタル者ハ)及何年何月何日附指令第何號ヲ以テ製腦場所擴張ノ御許可相成(ラ入ルコト)組製樟腦何斤樟腦油何斤前年度ヨリ引續キ製造セシモノハ「粗製樟腦」ノ上ニ「本年度モ」ヲ入ルルコト)製造仕候處何何(廢止ノ事由ヲ詳記スルコト)ニ依リ廢止仕度候條御許可被下度此段奉願候也

年 月 日

製腦業者 氏 名印

臺灣總督府專賣局長宛

○臺灣總督府令第六十號(官報 八月十七日)

明治三十四年十月府令第六十四號中臺灣總督府專賣局苗栗支局及臺中支局ハ明治三十八年八月十四日限り之ヲ廢止ス

明治三十八年八月十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十一號(官報 八月三十一日)

明治三十八年八月二十三號臺灣土地登記規則施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年八月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十三條中臺灣總督府ノ所管ノ下ニ(地方費區ヲ含ム)ヲ加フ

第十五條 臺灣土地登記規則施行前ニ設定シタル典權ニシテ登記規則施行後設定ノ登記ヲ爲サス

シテ其ノ消滅ノミニ登記ヲ申請スル者アリタルトキハ先ツ職權ヲ以テ典權設定ノ登記ヲ爲スハ

前項ノ場合ニ於テ土地臺帳所管廳ニ對シテハ土地臺帳ニ典權設定ノ記載アル場合ニ限り消滅登

記ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

附 則

本令ハ明治三十八年八月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十二號(官報 八月三十一日)

臺灣土地登記規則施行前ニ生シタル業主權ノ移轉若ハ典權ノ消滅ニシテ明治三十八年六月三十日

明治三十八年八月 臺灣總督府令 第六十號 第六十一號 第六十二號

九五

迄ニ土地臺帳所管廳ニ其ノ届出ヲ爲ササリシ者ハ業主權移轉又ハ典權消滅ニ關スル證據書類ヲ添
ヘ明治三十八年十月三十一日迄ニ土地臺帳所管廳ニ届出ヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ土地臺帳所管廳ハ之ヲ土地臺帳ニ登錄スヘシ
本令ハ明治三十八年八月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十三號 (官報 八月三十一日)

官廳用軍用及私設電線ノ保守並電池掃除依託規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十八年八月二十四日

官廳用軍用及私設電線ノ保守並電池掃除依託規則

第一條 官廳用軍用又ハ私設ノ電線及電池ノ施設者若ハ管理者ハ其ノ電線ノ保守又ハ電池ノ掃
除ヲ民政部ニ依託スルコトヲ得

民政部前項ノ依託ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ其ノ諸否ヲ依託者ニ通知スヘシ

第二條 前條ノ依託申請書ニハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添付スヘシ

一 電線ノ位置、線路ノ里程、架線ノ種類、太サ、及延長里程

二 電池ノ種類及箇數

前項第一號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示シ第二號電池ノ箇數ハ各箇所別ニ計算スヘシ

第三條 第一條ノ受託ノ通知ヲ受ケタル者ハ此ノ規則ニ定ムル電線保守料又ハ電池掃除料ヲ民政
部ニ納付スヘシ

第四條 民政部ニ依託シタル電線ノ保守及電池ノ掃除ハ電信建築事務ヲ兼掌スル郵便電信局ニ於

テ之ヲ施行ス

第五條 電線保守料ハ公衆用電信電話線路ニ添架ノモノト單獨建設ノモノトヲ問ハス保守ニ係ル
一切ノ費用ヲ合シ線數一條里程一町ニ付一箇年金一圓五十錢トス其ノ一町未滿ノ端數亦同シ但

シ公衆用電線ノ存在セサル地方ニ建設セル單獨線路及電纜若ハ鐵線以外ノ線條ヲ架設セル線路

並特殊ノ方法ニ依リ保守スルヲ必要トスル線路ノ保守料ハ別ニ之ヲ定ム

依託者ノ請求ニ因ル電柱移轉、線路變更等ニ要スル費用ハ依託者ノ負擔トス

第六條 電池掃除料ハ電池十箇迄ノ場所一箇所ニ付一箇年金十六圓八十錢トシ一箇所ニ付電池數

一箇以上十箇迄ヲ増ス毎ニ一箇年金四圓二十錢ヲ加算ス

前項掃除料ニハ備入材料及器具代ノ外掃除ニ要スル材料ハ包含セス

第七條 電線保守及電池掃除ノ依託一箇年ニ滿タサル場合ノ料金ハ月割ヲ以テ計算シ依託ノ月及

依託解除ノ月ハ日數ニ拘ラス一箇月ニ計算ス

第八條 電線保守依託中電柱移轉又ハ修築等ノ爲線路ノ伸長シタル場合ハ其ノ月ヨリ又線路ノ短

縮シタル場合ハ其ノ翌月ヨリ伸縮シタル里程ニ應シ保守料ヲ變更ス但シ其ノ増減一町未滿ノモ

ノハ其ノ年度内保守料ヲ變更セス

電池掃除依託中電池數ノ増加シタル場合ハ其ノ月ヨリ又電池數ノ減少シタル場合ハ其ノ翌月ヨ

リ増減シタル電池數ニ應シ掃除料ヲ變更ス

第九條 電線保守料及電池掃除料ハ年額金ヲ二分シ左ニ掲クル期別ニ從ヒ每期ノ末月ニ納付スヘ

シ但シ依託解除ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第一期 四月一日ヨリ九月三十日マテ

第二期 十月一日ヨリ三月三十一日マテ

附則

本令ハ明治三十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第六十四號 (官報 八月三十一日)

明治三十五年十月府令第七十四號中左ノ通改正ス

明治三十八年八月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

東港税關監視署ノ次ニ舊社税關監視署ヲ宜蘭廳管下東港ノ次ニ基隆廳管下三貂堡社里庄ヲ加フ
許厝港税關監視署ノ次ニ香山税關監視署ヲ桃園廳管下許厝港ノ次ニ新竹廳管下竹北一堡香山庄ヲ加フ

通霄税關監視署ノ次ニ苑裡税關監視署ヲ苗栗廳管下通霄ノ次ニ同廳管下苑裡庄ヲ加フ

布袋嘴税關監視署ノ次ニ北門嶼税關監視署ヲ嘉義廳管下布袋嘴ノ次ニ鹽水港廳管下學甲堡北門嶼庄ヲ加フ

灣裡税關監視署ノ次ニ赤嵌税關監視署ヲ臺南廳管下灣裡港ノ次ニ鳳山廳管下仁壽上里赤嵌庄ヲ加フ

車城税關監視署ノ次ニ「大板埤税關監視署」ヲ恆春廳管下車城ノ次ニ「同廳管下至厚里窩鑿鼻庄」ヲ加フ

「大板埤税關監視署」ヲ恆春廳管下車城ノ次ニ「同廳管下至厚里窩鑿鼻庄」ヲ加フ

「大板埤税關監視署」ヲ恆春廳管下車城ノ次ニ「同廳管下至厚里窩鑿鼻庄」ヲ加フ

「大板埤税關監視署」ヲ恆春廳管下車城ノ次ニ「同廳管下至厚里窩鑿鼻庄」ヲ加フ

○臺灣總督府令第六十五號(官報 九月二十日)

明治三十六年三月府令第十五號臺灣保安林規則施行細則左ノ通改正ス

明治三十八年八月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣保安林規則施行細則

第一條 地方廳ニ於テ保安林ノ指定及解除ヲ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ニ具申スヘシ
直接利害ノ關係アル他ノ官廳又ハ人民ニ於テ前項ノ必要ヲ認ムルトキハ所轄地方廳ヲ經テ臺灣
總督ニ申請スルコトヲ得

第二條 保安林ノ指定ヲ爲スニハ實地調査ヲ行ヒ保安林指定調書及保安林地圖ヲ作成スルモノト
ス

保安林中一部ノ解除ヲ爲ス場合ニハ實地調査ヲ行ヒ保安林指定調書及保安林地圖ニ變更ヲ加フ
ヘシ但シ時宜ニ依リ實地調査ヲ省略スルコトアルヘシ

第三條 前條ノ實地調査ヲ行フ場合ニハ土地ノ業主若ハ直接ノ利害關係人ヲシテ立會ハシムルコ
トアルヘシ

第四條 實地調査ノ爲必要ナル處分ヲ爲スニ因リテ生シタル損害ニ對シテハ之カ賠償ヲ要求スル
コトヲ得ス

第五條 保安林指定ノ爲實地調査ニ著手シタルトキハ之ヲ決定スルマテ其ノ森林ニ於ケル土石切
芝ノ採取樹根ノ採掘又ハ木竹ノ伐採ヲ制限スルコトアルヘシ

第六條 保安林ノ指定及解除ハ臺灣總督府報ヲ以テ告示シ竝森林所在地ノ街庄役場ニ揭示シ且

業主及林木所有者ニ通達ス但シ場合ニ依リ業主及林木所有者ヲ調査スルノ暇ナキトキハ之カ通達ヲ爲ササルコトアルヘシ

第七條 保安林ヲ指定シタルトキハ四至境界適當ノ箇所ヲ選ヒ別記第一號様式ノ標識ヲ建設スヘシ

第八條 地方廳ニ於テ臺灣保安林規則第五條乃至第八條ノ執行ヲ必要ト認ムルトキハ臺灣總督ニ具申スヘシ

第九條 臺灣保安林規則第五條ニ依リ保安林ノ伐採ヲ禁止シタル場合ニ於ケル直接ノ損害ハ之ヲ補償スルコトアルヘシ

第十條 保安林ニ於テ土石切芝ノ採取樹根ノ採掘竹木ノ伐採又ハ家畜ノ放牧ヲ爲サントスル者ハ別記第二號及第三號様式ニ依リ保安林ノ接續地ニ火入ヲ爲サントスル者ハ第四號様式ニ依リ所轄地方廳ニ出願シ認可ヲ受クヘシ

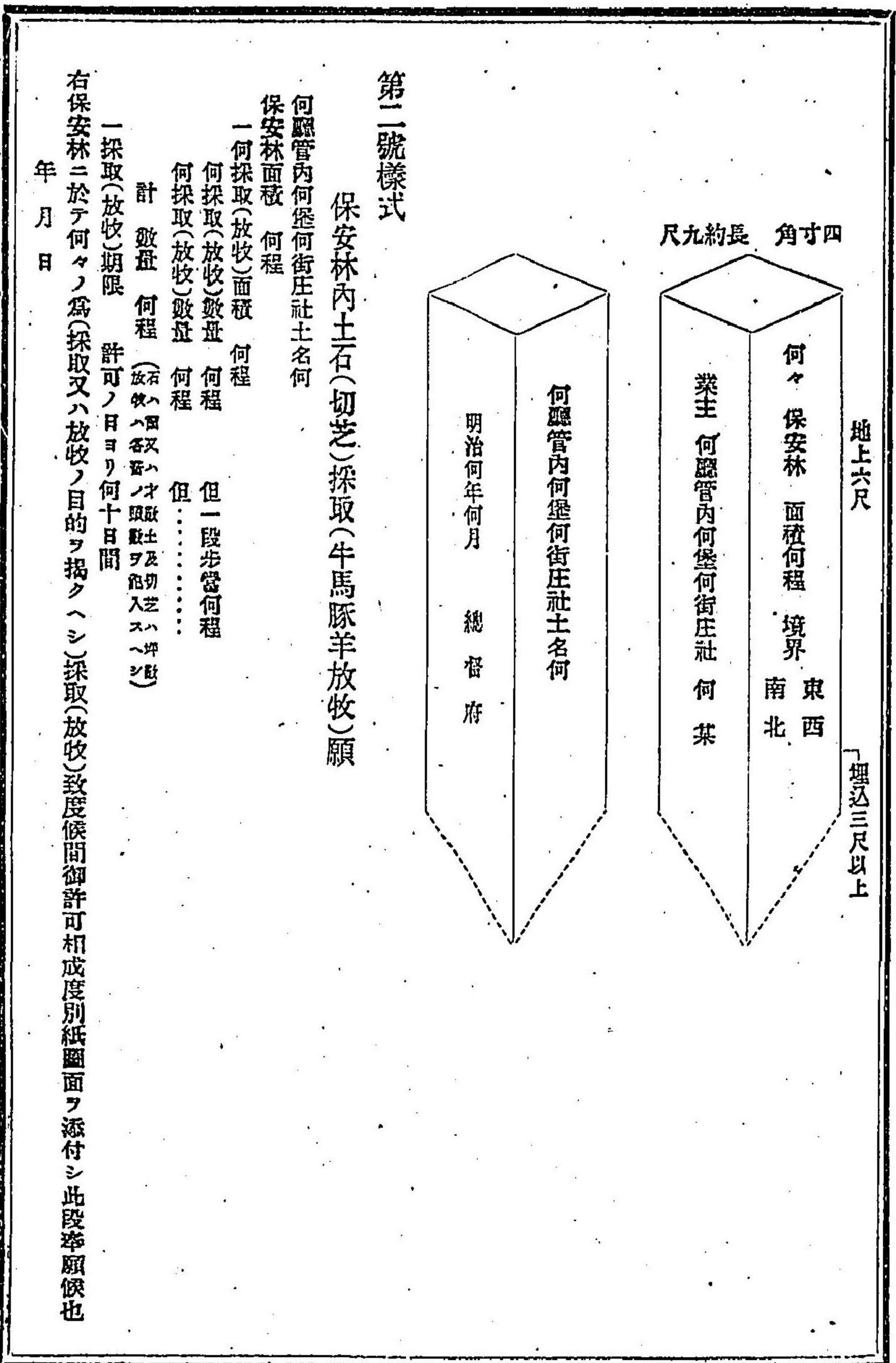
第十一條 前條ニ依リ火入ノ認可ヲ受ケタル者ハ所轄廳支廳又ハ其ノ派出所ニ火入ノ日時ヲ届出ヘシ

火入ヲ爲ストキハ延焼ヲ防ク爲當該官吏ノ命令ニ從ヒ相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 第三條第五條及第十一條ニ違反シタル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

(別記)

第一號様式



第九條 削除

附則

本令ハ明治三十八年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第九十五號外國旅行券規則(明治三十三年十月六日抄録)

第八條 旅行者歸著シタルトキ若ハ旅券下付ヲ受ケタル後六箇月以内ニ出發セザルトキハ旅券ヲ最初下付ヲ受ケタル官廳ニ返納スヘシ

旅券下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ遺族ヨリ之ヲ返納スヘシ第二條第一項ニ依リ下付ヲ受ケタル旅券ハ本人歸著後所管官廳ヲ經テ臺灣總督府ニ返納スヘシ同條第二項ニ依リ下付ヲ受ケタル旅券亦同シ

第九條 商業漁業其他職業ノ爲數次往復スル者ハ歸著毎ニ其旅券ヲ返納スルコトヲ要セス但旅券領取ノ日ヨリ三箇年ヲ經過シタルトキハ此限ニアラス

○臺灣總督府令第七十號(官報 九月二十九日)

人口異動ニ關スル届出規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

人口異動ニ關スル届出規則

- 第一條 左ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ事實發生ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官吏派出所(警察官吏相當スル縣直轄支廳直轄ニ在リテハ派出所以下之ニ依リ)ヲ經由シ廳長ニ届出ヘシ但シ本島人ニ在リテハ甲長保正ヲ經由シ甲長保正ハ警察官吏派出所ヲ經由シテ之ヲ廳長ニ差出スヘシ
- 一 生産(棄兒ヲ含ム)
- 二 死産
- 三 死亡
- 四 養子縁組

五 結婚(婿養子縁組入夫)

六 離縁

七 離婚

八 轉住

九 國籍ノ得喪

十 氏名生年月日原籍ノ變更

前項第八號ノ場合ニ於テハ新舊兩住所ノ所轄警察官吏派出所ヲ經テ届出ヘシ

第二條 此ノ規則ニ依ル届出ハ一事件毎ニ提出スヘシ

第三條 生産届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 父母ノ氏名及其ノ種族
- 四 嫡出子、庶子、私生子ノ別
- 五 出生ノ年月日
- 六 嫡出子、庶子ニ在リテハ父、私生子ニ在リテハ母ノ職業及其ノ地位
- 七 出生ノ場所
- 八 原籍地(内地人ニ限ル)
- 九 國籍(外國人ニ限ル)
- 十 生兒トノ續柄

第四條 死産届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 男女ノ別
- 二 死胎分娩ノ年月日
- 三 妊娠月數
- 四 嫡出子、庶子、私生子ノ別
- 五 父母ノ種族
- 六 嫡出子、庶子ニ在リテハ父、私生子ニ在リテハ母ノ職業及其ノ地位
- 七 死胎分娩ノ場所
- 八 原籍(内地人ニ限ル)
- 九 國籍(外國人ニ限ル)
- 十 死兒トノ續柄

第五條 死亡届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 氏名
- 二 男女ノ別
- 三 種族
- 四 六歳未満ノ死亡者ニ限リ嫡出子、庶子、私生子ノ別
- 五 出生ノ年月日
- 六 死亡ノ年月日
- 七 職業及其ノ地位

八 死因及主治醫(官醫、奉職醫、公醫、限業醫、醫生ノ別)

九 死亡ノ場所

十 原籍地(内地人ニ限ル)

十一 國籍(外國人ニ限ル)

十二 死亡者トノ續柄

第六條 養子縁組届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者雙方ノ氏名
- 二 當事者雙方ノ種族
- 三 當事者雙方ノ職業及其ノ地位
- 四 養子出生ノ年月日
- 五 當事者雙方ノ現住所
- 六 原籍地(内地人ニ限ル)
- 七 國籍(外國人ニ限ル)

第七條 結婚届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者雙方ノ氏名
- 二 當事者雙方ノ種族
- 三 當事者雙方ノ職業及其ノ地位
- 四 當事者雙方ノ縁事上ノ有様(初婚者、再婚者以上ニアリテハ、死別又ハ離婚ノ最近ノ事實)
- 五 結婚種別(普通結婚、婿養子縁組、夫婿結婚)

六 當事者雙方ノ出生ノ年月日
 七 當事者雙方ノ現住所
 八 原籍地(内地人ニ限ル)
 九 國籍(外國人ニ限ル)
 第八條 養子離縁届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 當事者雙方ノ氏名
 二 當事者雙方ノ種族
 三 當事者雙方ノ職業及其ノ地位
 四 離縁ノ原因
 五 離縁ノ年月日但シ裁判上ノ離縁ニ在リテハ裁判確定ノ年月日
 六 縁組届出ノ年月日
 七 養子出生ノ年月日
 八 當事者雙方ノ現住所
 九 原籍地(内地人ニ限ル)
 十 國籍(外國人ニ限ル)
 第九條 離婚届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 當事者雙方ノ氏名
 二 當事者雙方ノ種族
 三 當事者雙方ノ職業及其ノ地位

四 離婚ノ原因(協議又ハ裁判上)
 裁判上ノ離婚ナルトキハ夫妻孰レヨリ訴ヲ提起セシヤ且内地人ニ在リテハ訴ノ原因カ民法
 第八百十三條各號ノ何レニアリヤノ別
 五 離婚ノ年月日但シ裁判上ノ離婚ニ在リテハ裁判確定ノ年月日
 六 結婚届出ノ年月日
 七 當事者雙方ノ出生ノ年月日
 八 當事者雙方ノ現住所
 九 原籍地(内地人ニ限ル)
 十 國籍(外國人ニ限ル)
 第十條 轉住トハ總テ其ノ居所ヲ移轉シタルモノヲ云フ
 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當シタルモノハ轉住ト見做ス
 一 居住ノ目約ニ非スト雖六十日以上同一警察官吏派出所管轄區域内ニ滞留スルモノ
 二 六十日以上行衛不明ノモノ
 前項ノ場合ニ於ケル第一條ノ届出期限ハ六十日ノ末日ヨリ起算ス
 第十二條 轉住届ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 氏名
 二 男女ノ別
 三 種族
 四 職業及其ノ地位

- 五 出生ノ年月日
 - 六 轉住ノ年月日
 - 七 舊住所
 - 八 新住所
 - 九 轉住ノ事由(結婚又ハ縁組ニ依リ住所ヲ轉スルモノヲ含ム)
 - 十 原籍(内地人ニ限ル)
 - 十一 國籍(外國人ニ限ル)
- 第十二條 認知婚姻養子縁組若ハ歸化其ノ他ノ原因ニ依リ日本ノ國籍ヲ取得シタル外國人ハ左ノ事項ヲ記載シ届出ヘシ
- 一 氏名
 - 二 男女ノ別
 - 三 種族
 - 四 職業及其ノ地位
 - 五 出生ノ年月日
 - 六 國籍取得ノ年月日
 - 七 舊國籍
 - 八 國籍取得ノ原因
 - 九 原籍地原籍地ナキトキハ現住所
- 第十四條 日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ハ左ノ事項ヲ記載シ届出ヘシ

- 一 氏名
 - 二 男女ノ別
 - 三 種族
 - 四 職業及其ノ地位
 - 五 出生ノ年月日
 - 六 國籍喪失ノ年月日
 - 七 新ニ取得シタル國籍
 - 八 國籍喪失ノ原因
 - 九 舊原籍地舊原籍地ナキトキハ舊住所
- 第十五條 氏名生年月日原籍内地人ニ限ルニ變更ヲ生シタルトキハ左ノ事項ヲ記載シ届出ヘシ
- 一 變更前ノ氏名生年月日原籍
 - 二 變更シタル氏名生年月日原籍
 - 三 變更ノ事由
 - 四 變更シタル年月日但シ内地人ニ在リテハ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ年月日
 - 五 原籍地原籍地ナキトキハ現住所
- 第十六條 前各條ノ届出ハ單獨者ニ在リテハ自身一戸ヲ構ヘタル者ニ在リテハ其ノ主宰者ヨリ届出スヘシ
- 自身又ハ主宰者ヨリ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ家屋又ハ其ノ土地ノ管理者ヨリ届出スヘシ但シ變死ノ場合ニ在リテハ警察官吏ノ作りタル檢證調書ノ謄本又ハ抄本ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第十七條 此ノ規則ニ依ル届出事項ニ關シ警察官吏ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條 此ノ規則ニ定ムル所ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十九條 人口異動ニ關スル届書ハ別記様式ニ依ル

附則

本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年八月府令第八十八號ハ之ヲ廢止ス

第一條ノ届出ハ當分ノ内本島人ニ在リテハ保甲條例施行細則及保甲規約ノ定ムル所ニ依リ保正ヨリ届出ルコトヲ得

(別記様式)

出生届

氏名	
男女ノ別	
父母ノ氏名及其族	(父ノ)
種	(母ノ)
嫡出子ノ庶子ノ別	
私生子ノ別	
出生ノ時	明治十年 月 日
職業及地位	(父ノ)
出生ノ場所	(母ノ)

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル) 現住所 生兒トノ綴柄(主宰者)

何 某[㊦]

明治年月日

應長宛 死産届

男女ノ別	
死胎分娩ノ時	明治十年 月 日
妊娠日數	箇月
嫡出子ノ庶子ノ別	
私生子ノ別	
種	(父ノ)
職業及位置	(母ノ)
死胎分娩ノ場所	(父ノ)
	(母ノ)

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル) 現住所 死兒トノ綴柄(主宰者)

何 某[㊦]

明治年月日

應長宛 死亡届

氏名	
男女ノ別	

種族	
六歳未満ノ死亡者ニ限リ届出スル庶子私生子ノ別	
出生ノ時	年 月 日
死亡ノ時	明治十年 月 日
職業及地位	(死亡者ノ) (働者ノ)
死因及主治醫	
死亡ノ場所	

明治年 月 日

廳長宛

備考 出生、死産、死亡ノ届出人カ出生者、死産、死亡者ト親族關係ヲ有セサルモノナルトキハ其ノ旨記載スヘシ

養子縁組届

氏名	養父ノ	養子ノ
種族		
職業及地位		
養子出生ノ時		

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)

現住所

死亡者トノ続柄(主筆者)

何

某

縁組當時ノ所在地	養父	養子
----------	----	----

明治年 月 日

廳長宛

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)

現住所

養父 何

某

結婚届

氏名	夫	妻
種族		
職業及地位		
縁組上ノ有様		
結婚種別		
出生ノ時	年 月 日	年 月 日
結婚當時ノ所在地	夫	妻

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)

現住所

明治 年 月 日

應長宛
養子離縁届

夫(又ハ妻) 何

某

氏名	養父ノ	養子ノ
種族		
職業及地位		
離縁ノ原因		
離縁ノ年月日		
縁組届出ノ年月日		
養子出生ノ時		
縁組當時所在地	養父	養子

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)
現住所 養父 何 某

明治 年 月 日

應長宛
離婚届

夫ノ妻ノ

明治 年 月 日

應長宛
轉住届

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)
現住所 夫(又ハ妻) 何 某

氏名	
種族	
職業及地位	
離婚(協議上)原因(裁判上)訴ヲ提起シタルモノ(民法第八百十三條第 號(内地人ニ限ル))	
離婚ノ時	明治 年 月 日
結婚ノ時	年 月 日
出生ノ時	年 月 日
離婚當時所在地	夫 妻

氏名	
種族	
男女別	

轉業及地位	出生ノ時	轉住ノ時	舊住ノ所	新住ノ所	轉住事由
	年 月 日	年 月 日			

明治 年 月 日

國籍取得屆
廳長宛

原籍地(内地人ニ限ル)又ハ國籍(外國人ニ限ル)
現住所
本人(主宰者) 何 某 ㊦

氏名	男女ノ別	種族	職業及地位	出生ノ時	國籍取得ノ時	舊國籍	國籍取得ノ原因

原籍地(原籍地
ナキトキハ現住
所)

明治 年 月 日

國籍喪失屆
廳長宛

原籍地(内地ニ本籍ヲ有スル場合ニ限ル)
現住所
本人(主宰者) 何 某 ㊦

氏名	男女ノ別	種族	職業及地位	出生年月日	國籍喪失ノ年月日	新ニ取得シタル國籍	國籍喪失ノ原因	原籍地(原籍地 ナキトキハ現住 所)

明治 年 月 日

廳長宛

原籍地(内地ニ本籍ヲ有セシ場合ニ限ル)
現住所
本人(主宰者) 何 某 ㊦

氏名(年齢)(原籍)變更届

變更前(氏名)(生年月日)(原籍)	變更シタル氏名(生年月日)(原籍)	變更ノ事由	變更ノ年月日又ハ許可年月日

原籍地(内地人ニ限ル) 現住所

本人(主事者) 何 某

明治 年 月 日 廳長宛

(参照)

明治三十二年三月廿二日臺灣總督府令第八十八號ハ臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出生産死亡等ニ關スル届出方ナリ

○臺灣總督府令第七十一號(官報 九月二十九日)

通常郵便ニ依ル人口動態用小票ニシテ別ニ定ムル所ノ封皮ニ納メ封緘ヲ爲ササルモノハ本島内ニ限リ郵便切手ヲ貼付セス料金後納トシテ差出スコトヲ得

前項郵便物一箇ノ量目ハ封皮ヲ併セ三十匁以内トシ他ノ特殊取扱ヲ爲スコトヲ得ス 本令ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年九月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十二號(官報 九月二十九日) 蕃地取締規則左ノ通相定ム

明治三十八年九月二十二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

蕃地取締規則

- 第一條 蕃地ニ出入セントスル者ハ其ノ目的、期間、地域ヲ定メ管轄廳ニ願出鑑札(別記様式)ヲ受クヘシ
- 第二條 伐木、採鑛、開墾其ノ他之ニ類スル事業ノ許可ヲ受ケタル者ハ豫メ其ノ使備人ノ業別人員ヲ届出鑑札(別記様式)ヲ付與携帶セシムヘシ
- 第三條 前二條ニ依リ受ケタル鑑札ハ蕃地出入ノ際之ヲ携帶スヘシ組製樟腦、樟腦油專賣法施行細則第十條ノ鑑札ヲ受ケタル者蕃地出入ノ際亦同シ
- 第四條 伐木、採鑛、開墾其ノ他之ニ類スル事業ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ蕃地内ニ事務所、板寮、佃寮等ヲ建設シ又ハ使備人及其ノ家族ヲ假任セシムルトキハ之カ管理人ヲ定メ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ建設物ノ位置ヲ明記シタル圖面並假住者ノ原籍、氏名、年齢ヲ記載シタル名簿ヲ添ヘ管轄廳ニ届出ヘシ其ノ異動アルトキ亦同シ
- 第五條 建設物ニハ管理人ニ於テ居住者ノ氏名ヲ記載シタル門標ヲ見易キ位置ニ掲出スヘシ
- 第六條 組製樟腦、樟腦油製造ノ許可ヲ受ケタル者蕃地内ニ事務所又ハ腦寮ニアラサル建設物ヲ設ケタル場合ハ前條第一項ニ又腦寮ニ在リテハ同條第二項ニ準據スヘシ
- 第七條 前二條ノ建設物ニハ蕃地出入ノ許可ナキ者ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス
- 第七條 第一條ニ違背シテ蕃地ニ出入シタル者ハ十一日以上六箇月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項卒業者ハ其居住地ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ臺灣總督府ニ届出ヘシ其居住地ヲ變更シタルトキ亦同シ

○臺灣總督府令第七十五號(官報十月二十四日)

明治三十八年十月府令第四十三號臺灣土地登記規則施行規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第四條ノ二 民事訴訟法第五百五十九條ニ依ル和解、民事訴訟法特別手續第二十六條ニ依ル請求

ノ認諾及應ニ於テ成立シタル民事争訟調停調書ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スル

コトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ其ノ土地カ未登記ナルトキハ不動産登記法第二百二十九條ノ規定

ヲ準用ス

第十五條第一項中典權ノ下ニ「胎權及墾耕權」ヲ加フ

附則

本令ハ明治三十八年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第七十六號(官報十月二十八日)

明治三十三年十月府令第九十五號外國旅行券規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十三條ノ二 第八條第十條ニ依リ旅券ノ返納ヲ爲サヌ又ハ第十一條ノ届出ヲ爲ササル者ハ十圓

以下ノ罰金ニ處ス

○臺灣總督府令第七十七號(官報十一月二日)

自今臺灣總督府及遞信省ニ於テ發行スル繪葉書ノ種類、賣捌價格及發賣期日等ハ其ノ都度郵便局

所前ニ揭示セシム但シ其ノ賣捌方ハ明治三十八年五月府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣

捌規則ヲ準用ス

明治三十八年十月二十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十八號(官報十一月七日)

臺灣汽船職員規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十八年十月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣汽船職員規則施行細則

第一條 臺灣汽船職員規則ニ規定スル海技免狀ハ高等ノ免狀ヲ以テ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ

得

甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對

シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙

種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス

機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及三等機關士免狀ニ對シ、

二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ、各高等ノ免狀トス

第二條 近海航路汽船ニ於テハ乙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ、乙種一等運轉士免狀ヲ

以テ甲種二等運轉士免狀ニ、沿海航路汽船ニシテ總噸數二百噸未満ノモノニ於テハ乙種二等運

轉士免狀ヲ以テ乙種一等運轉士免狀ニ、三等機關士免狀ヲ以テ二等機關士免狀ニ、平水航路汽船

ニ於テハ乙種二等運轉士免狀ヲ以テ乙種二等運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

第三條 左ノ場合ニ於テハ臺灣汽船職員規則第五條ニ定ムル汽船職員ノ全部又ハ一部ヲ乗組マシメサルコトヲ得

一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル汽船ヲ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ

二 臺灣ト外國トノ間ヲ航行スル汽船外國ノ港ニ於テ汽船職員ニ缺員ヲ生シ臺灣ノ到達港マテ回航スルトキ

三 外國ノ湖川港内又ハ各港間ノミヲ航行スル汽船ニシテ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀ヲ有スル者ヲ乗組マシメタルトキ又ハ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシメタルトキ

四 航行中汽船職員ニ缺員ヲ生シタルトキ

五 他船ニ引カレテ航行スルトキ

六 汽船ヲ運航ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テハ汽船所有者又ハ船長ハ海技免狀ヲ受有スル者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシムヘシ

第四條 臺灣汽船職員規則第三條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ別記第一號書式ノ書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第五條 臺灣汽船職員規則第三條第三項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ臺灣總督府ニ左ノ書類ヲ差出シテ體格検査ヲ申請スヘシ

一 別記第三號書式ノ申請書

二 身分書(臺灣汽船職員試驗規程第五條ノ規定ニ依ル)

三 海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書最後任官ノ辭令書ノ寫

四 商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫

五 海技免狀ヲ有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乘船履歷書

前項ノ履歷書ニ付テハ相當證明書辭令書卒業證書又ハ外國政府ノ海技免狀寫ニ付テハ各原本ヲ檢閱ニ供スヘシ

體格検査ヲ受ケ合格シタル者ハ別記第一號書式ノ書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登錄ヲ申請スヘシ

第六條 臺灣總督府ニ於テ第四條又ハ前條第三項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ船員名簿ニ登錄シ別記第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授與ス

一 海技免狀ノ種類

二 氏名

三 本籍地及族稱(外國人ナルトキハ國籍)

四 出生ノ年月日

五 合格ノ年月日

第七條 海技免狀ヲ受有スル者第四條又ハ第五條第三項ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ現ニ懲戒審理開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ口頭審問ニ付セストノ決定又ハ評決言渡ヲ受ケルマテ之ヲ停止ス

前項評決ニ依リ執職ヲ停止セラレタルトキハ尙其ノ處分ヲ終ルマテ登録ヲ停止シ執職ヲ禁止セラレタルトキハ登録ノ申請ハ之ヲ却下ス

第八條 第六條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ變更ニ係ル新舊事項ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シ海技免狀ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲サントスル者本島人ナルトキハ本人居住地ノ廳長、内地人ナルトキハ本籍地ノ戸籍吏、外國人ナルトキハ本國領事ヨリ其ノ變更セル事實ノ證明ヲ受ケ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第九條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ免狀受有者ハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ其ノ再交付ヲ申請スヘシ

第十條 臺灣總督府ニ於テ第八條又ハ前條ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ更ニ海技免狀ヲ申請人ニ交付ス

申請人前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ヲ引換ニ舊免狀ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十一條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事實アリタル日又ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ臺灣總督府ニ差出シテ登録ノ抹消ヲ申請スヘシ

- 一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
- 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
- 三 疾病又ハ身體不具ノ爲執職ニ不適當トナリタルトキ

- 四 執職ヲ禁止セラレタルトキ
- 五 汽船職員試験規程ノ規定ニ依リ合格無效トナリタルトキ
- 六 廢業シタルトキ

海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

登錄ノ抹消ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添附シテ之ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ若之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ届出ヘシ

第十二條 臺灣總督府ハ左ノ場合ニ於テ登録ノ抹消ヲ爲ス

- 一 前條ノ申請ヲ受ケタルトキ
- 二 登録ノ抹消ヲ申請スヘキ者規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
- 三 詐偽ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ

臺灣總督府ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ登録ノ抹消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク該免狀ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十三條 海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ下等免狀ニ對スル登録ハ臺灣總督府ニ於テ之ヲ抹消ス

前項ノ場合ニ於テ下等免狀ハ高等免狀ト引換ニ之ヲ臺灣總督府ニ返還スヘシ

第十四條 海技免狀ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生シタルトキヨリ第十一條第一項各號及第十二條第一項第二號第三號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其ノ效力ヲ失フ

第十五條 申請者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

一 第四條又ハ第五條第三項ニ依リ登録ヲ申請スルトキ 二十圓

二 第五條第二項ニ依リ體格検査ヲ申請スルトキ 一圓

三 第八條第二項又ハ第九條ニ依リ海技免狀ノ書換又ハ再交付ヲ申請スルトキ 一圓

第十六條 第八條第一項第九條第十條第十一條第十二條第三項及第十三條第二項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ第八條第九條又ハ第十一條ニ該當セル者ハ本令施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本令ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

第十六條ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

(別記)

第一號書式

船員名簿登録申請書

- 一 海技免狀ノ種類
- 二 氏名(假名ニテ傍則ヲ附スヘシ)
- 三 本籍及族階(外國人ナルトキハ國籍)
- 四 出生ノ年月日
- 五 合格ノ年月日

右船員名簿ニ登録ノ上海技免狀授與相成度臺灣汽船職員規則施行細則第四條(第五條第三項)ニ依リ此段申請候也

申請人

氏

名印

現住所

臺灣總督府氏名殿

第二號書式

體格検査申請書

臺灣汽船職員規則第三條第二項ニ依リ

年月日

免狀授與申請致度候間體格検査執行相成度履歷書身分書等相添此段申請候也

申請人

氏

名印

現住所

第三號書式

臺灣總督府氏名殿

第 號	道府縣羅華士族平民
氏 名	(外國人ニ在リテハ國籍)
出生ノ年月日	明治 年 月 日
登録ノ年月日	明治 年 月 日
免狀種類	(免狀種類)免狀
職員規則ニ依リ之ヲ授與ス	明治三十四年律令第十一號臺灣汽船職員規則ニ依リ之ヲ授與ス
臺灣總督府氏名印	

備考 一 海技免狀ノ寸法ハ堅九寸横一尺二寸トス

○臺灣總督府令第七十九號(官報十一月七日)

明治三十七年九月府令第七十二號中左ノ一號ヲ追加ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

一臺灣汽船職員規則施行細則第十五條ノ手数料

明治三十八年十月二十六日

〔參照〕

明治三十七年十月三十一日 臺灣總督府令第七十二號ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ナリ

○臺灣總督府令第八十號(官報十一月十一日)

明治三十三年十一月府令第八號中劇藥ノ部「ストロファン」スネ及其製劑ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十八年十月三十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

虎列刺血清

赤痢血清

連鎖球菌血清

腸窒扶私血清

飯匙蛇毒血清

丹毒治療液

○臺灣總督府令第八十一號(官報十一月十四日)

保正甲長ノ徽章左圖ノ通相定ム

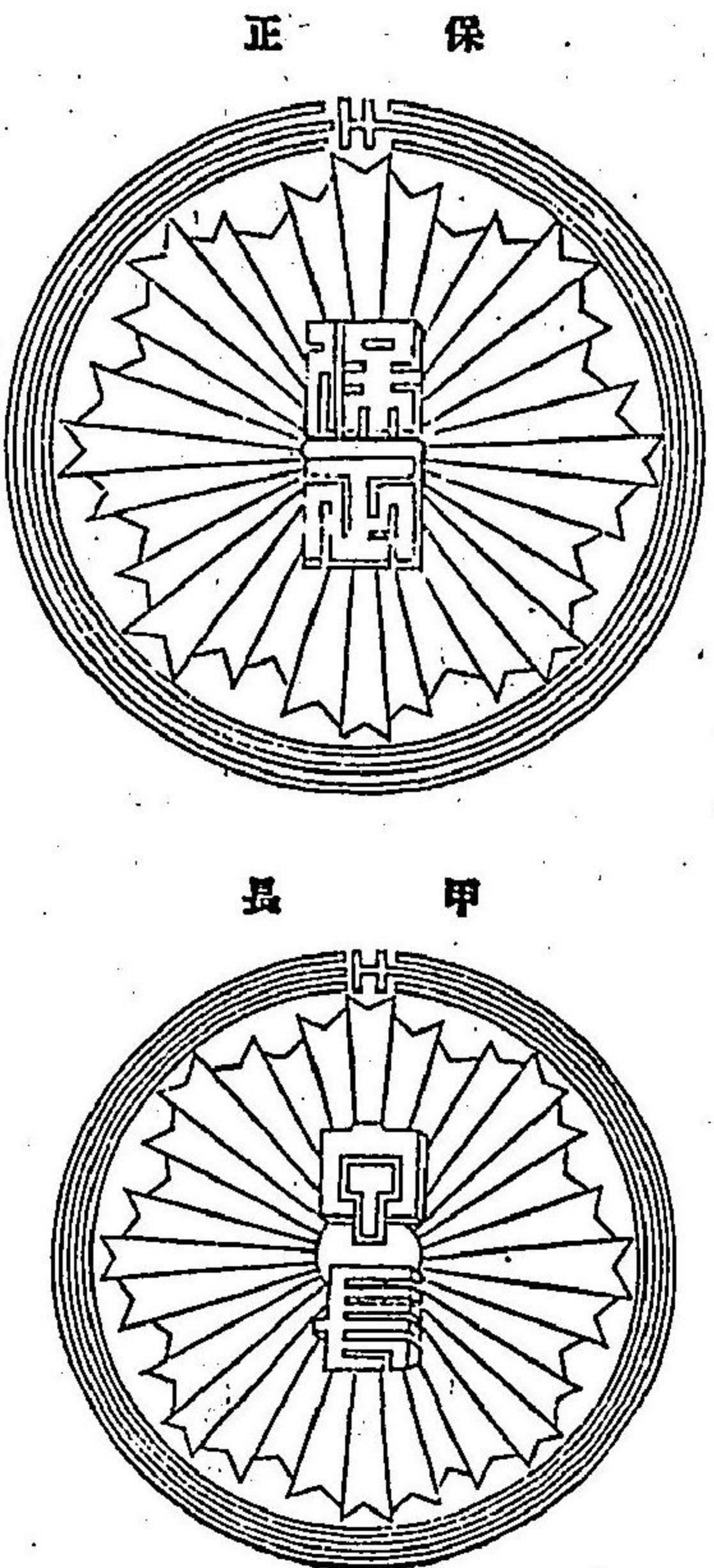
徽章ハ職務ニ従事スルトキ上衣左腕ニ附ス

本令ハ明治三十九年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十一月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

(敬告)



名務物質		製式		形状	
長	甲	正	保	紅	銀
留メバネヲ附ス	ナキ鑄造トス裏面ニ堅牢ニシテ取出シニ便利ナル衣	四分厚サ外線一分漸次中高トシ中心ニ至リ二分トス	六分厚サ外線一分漸次中高トシ中心ニ至リ二分トス	圓形日章ニシテテ周邊ヲ圍ミ其直徑一寸	圓形日章ニシテテ周邊ヲ圍ミ其直徑一寸
ナキ鑄造トス裏面ニ堅牢ニシテ取出シニ便利ナル衣	留メバネヲ附ス	圓形日章ニシテテ周邊ヲ圍ミ其直徑一寸	六分厚サ外線一分漸次中高トシ中心ニ至リ二分トス	圓形日章ニシテテ周邊ヲ圍ミ其直徑一寸	六分厚サ外線一分漸次中高トシ中心ニ至リ二分トス
如圖	如圖	如圖	如圖	如圖	如圖

○臺灣總督府令第八十二號(官報十一月十四日)

明治三十八年十月六日府令第三十八號製糖場取締規則第三條第二項ヲ左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

前項ノ原料採取區域内ニ於テハ在來ノ構造ニ依ル糖廠ニ於テ製糖業ヲ營ミ又ハ其ノ區域内ニ於テ甘蔗ノ買入ヲナスコトヲ得ス但シ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラス

〔參照〕

臺灣總督府令第三十八號製糖場取締規則(明治三十八年六月十七日官報)抄録

第三條 臨時臺灣糖務局長ハ製糖場ノ設立又ハ變更ノ許可ヲ與ヘタル場合ニハ其ノ原料採取區域ヲ限定スヘシ前項ノ原料採取區域内ニハ臨時臺灣糖務局長ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ糖廠ヲ設立スルコトヲ得ス

○臺灣總督府令第八十三號(官報十一月十八日)

明治三十六年五月府令第三十七號代書人取締規則中左ノ通改正ス

明治三十八年十一月八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

代書人ハ代書ノ委託ヲ勸誘シ又ハ正當ノ事故ナクシテ代書ノ委託ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條 廳長ハ代書人ニシテ此ノ規則ニ違背シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ代書人タルノ許可ヲ取消シ又ハ業務ノ停止ヲ命スルコトヲ得

〔參照〕

臺灣總督府令第三十七號代書人取締規則(明治三十六年五月十六日官報)抄録

第十一條 代書人此ノ規則ニ違背シタルトキハ廳長ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

○臺灣總督府令第八十四號(官報十一月十八日)

神社(臺灣神社ヲ除ク)寺院又ハ本島ノ舊慣ニ依ル寺廟等ノ所屬財産ヲ賣渡讓與交換又ハ其ノ他ノ處分ヲ爲シ或ハ之ヲ擔保ノ目的ニ供セントスルトキハ氏子檀家又ハ信徒總代二名以上連署ノ上

神職住職又ハ管理人ヨリ願出テ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

明治三十一年八月臺南縣令第十九號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年十一月十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十五號(官報十一月二十四日)

明治三十八年十月府令第七十七號第一項ノ次ニ左ノ通追加シ遞信省第四回發行ノ分ヨリ之ヲ適用ス

明治三十八年十一月十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

三等郵便及電信局、郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ前項ニ依リ買受ケタル繪葉書ニシテ買受ノ日ヨリ三箇月ヲ過クルモ賣捌ヲ了セサルモノアルトキハ定價ニ對シ三等郵便及電信局ニ在リテハ千分ノ八十ノ割引ヲ以テ所轄一、二等郵便電信局又ハ最寄一、二等郵便電信局へ郵便及電信受取所並郵便切手賣捌所ニ在リテハ千分ノ六十ノ割引ヲ以テ所轄郵便及電信局へ同葉書中他ノ種類ノモノ又ハ郵便切手類トノ交換ヲ請求スルコトヲ得